

科目名	教職入門B		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教育職員免許法及び同施行規則に定められた教職に関する科目のうち「教職の意義等に関する科目」に当たる。

#### 科目の概要

教員の職務とは何かを様々な視点から学ぶ。

- ・教職の意義及び教員の役割について
- ・教員の職務内容について
- ・基本的な教育法規
- ・昨今の教育課題 等

#### 学修目標 (= 到達目標)

教職についての基礎知識を習得し、教職の意義と教員の役割について理解を深めるとともに、教職への意欲を高める。

#### 内容

教職の意義、教員の役割、職務内容、研修・研究等について理解を深め、自らの教師像を描くとともに教育観の基礎を培う。

1	オリエンテーション 教育課程での学び
2	教育の歴史 教師の歴史
3	子どもの生活と学校
4	法規に見る教育 教師と法律
5	学習指導要領
6	学習指導要領の変遷
7	学習指導要領総則
8	教育課程の編成と実施
9	教師の仕事 学習指導
10	教師の仕事 生徒指導・進路指導
11	教師の仕事 学級経営・教育相談
12	学校の管理・運営体制
13	学校・家庭・地域社会の連携
14	教員の養成と採用・研修
15	これからの教師に求められること

#### 評価

授業への参加度(30%)、毎時間提出するワークシート(40%)、最終まとめ(30%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートについて、シェアリングを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】事前に課題を提示します。教科書や参考図書などを参照し、問題解決討議や事例研究に必要な情報を整理し、これをもって授業に臨むこと。

【事後学修】修得した知識や問題解決技法等で得た知見を記録するとともに、授業で取上げた関連事項や説明を参考にし、課題についてさらに考究し、レポートにまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説総則編(文部科学省)

【参考図書】授業において紹介する。

科目名	教育学概論 B		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校、高等学校教諭一種免許状取得に必要な「教育の基礎理論に関する科目」のうち、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を扱うものである。

教職課程の基礎科目として各教科の基本となる教育の基本理念、教育の歴史や思想について学習する。また、今日の教育の動き、教育改革の進行、諸外国の教育との比較、諸外国の教育が日本の教育に与えた影響などを含め、教育についての基本的かつ幅広い理解を目指す。

1) 現在の教育がどのような経緯で成立しているのかを理解する。2) 受講者と積極的に意見を交換し、教育についての関心を深める。3) 教育について問い、考え、各自の教育観の形成に役立てる。

#### 内容

本授業は、講義を基本に、グループワークおよびディスカッションを取り入れながらすすめてゆく。自ら課題を設定し、課題の解決に向けて調べる学習も含む。

1	教育とは・教育の諸概念(人間形成/社会化、無意図的教育/意図的教育)
2	現代社会の教育課題(新学習指導要領と新しい資質・能力)
3	学校体系にみる教育 諸外国と日本の比較
4	中等教育(制度・青年期の教育課題)
5	学力とは PISA・「全国学力・学習状況調査」
6	近代学校の誕生 日本
7	コメニウスの教育思想 - 子どものための絵入りの教科書(『世界図絵』)
8	コメニウスの教育思想 すべての人にすべてのことを教える普遍的技法(『大教授学』)
9	ルソーの教育思想 自然の教育・事物の教育・「子どもの発見」
10	ルソーの教育思想 人間の教育(子どもの教育/青年の教育/生きることを教える)
11	ペスタロッチの教育思想 「基礎陶冶」
12	ヘルバルトの教育思想 教師のための教育学と教育的判断力
13	近代学校の誕生 西洋
14	デューイの教育思想 児童中心主義 / 『学校と社会』 / 『経験と教育』
15	総括・まとめ

#### 評価

課題レポート60点、授業への取り組み(リアクションペーパーの内容を含む)・発表 40点の合計100点とし、60点以上が合格。【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、次回以降の授業内にて紹介し、コメントを加えるほか、質問に答える。

## 授業外学習

【事前予習】教育の時事について情報を収集する。また、文部科学省のホームページ等を適宜、参照し、教育改革の施策の動向を把握する（30分）。事前に提示した課題について調べる（30分）。

【事後学修】授業で扱った教職教養の基礎概念について、理解の定着を図る（30分）。課題に指定したレポートを作成する（3時間）。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】授業時に指示します。

【推薦書】木村元『学校の戦後史』岩波書店、2015年

今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2012年

【参考書】『教育思想事典』勁草書房、2000年

『教育思想事典（増補改訂版）』勁草書房、2017年

科目名	教育心理学B		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(K)-教職課程(K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)/栄養教諭一種免許状/栄養教諭二種免許状/中学校教諭一種免許状(国語)/高等学校教諭一種免許状(国語)/中学校教諭一種免許状(保健体育)/高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

教職課程の科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

##### 科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

##### 学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

#### 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

この授業では、講義を基本とする。しかし、学修事項と学習者の学校教育体験や学習活動とを結びつけて理解することを目的として、グループワークやディスカッションを展開する。さらに、そのまとめをWEB上で記載提出することで、主体的な学びを深める。

## 評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、総合評価60点以上を合格とする。

各授業で提出されたまとめについては、翌週の授業においてコメントをフィードバックする。

## 授業外学習

【事前予習】学習予定の章を読み、不明点を明らかにするとともに、章末の問題に対する解答をノートに記載する（授業ごとに60分）

【事後学修】授業で使用・記入したプリントをもとに、学習内容をノートにまとめ直す（授業ごとに60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】櫻井茂男（編）『改訂版・たのしく学べる最新教育心理学』 図書文化社

科目名	学校制度論 B		
担当教員名	松本 邦文		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

この科目は、中学校・高等学校の教諭の免許状、養護教諭の免許状、栄養教諭の免許状を取得希望のある学生にとっては、免許取得のための「教職に関する科目」の一つで「必修科目」である。

#### 科目の概要

- 1 基本的な学校関係法規についての学修を通して、我が国の学校教育に関する制度や学校教育の実 施についての基本事項について理解を深めていく。
- 2 毎回の授業ごとに、学校教育の制度について配布された資料や関係法規等を基に、プリントやノートにまとめたり考えを記述したりして、学校制度について自分の考えを持つ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

- 1 学校教育に関する基本的な法規及び制度について理解する。
- 2 教育法規に関する学習を通して、日本の教育制度についての自分の考えが持てる。

#### 内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを随時取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス。教育の目的及び理念。学校教育の目的・目標に関する事項
2	学校の種類・設置に関する事項
3	入学から卒業までにおける教育関係法規に関する基本的事項
4	教育行政の仕組みと新教育委員会制度・総合教育会議に関する事項
5	学習指導要領及び教育課程の編成、教科用図書等の教材に関する事項
6	教職員の組織、職務、服務、免許等に関する事項
7	就学、学級編成に関する事項
8	学校制度の変遷に関する事項(1)(戦前の学校教育制度の変遷)
9	学校制度の変遷に関する事項(2)(戦後の教育改革の変遷)
10	現代の教育課題と学校制度(1)(安全・自然災害)
11	現代の教育課題と学校制度(2)(健康・食の安全)
12	現代の教育課題と学校制度(3)(いじめ)
13	現代の教育課題と学校制度(4)(不登校)
14	学校と地域との連携と協働(学校評価、学校運営を含む)
15	まとめ

## 評価

授業への参加度(毎授業時の課題に対する見方・考えを評価する) 30%, 小まとめ・小テスト 20%, 筆記試験 50%等により総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートは,コメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

## 授業外学習

【事前予習】教育六法を使って,基本的な法規などに当たるとともに,主な法規ページにインデックスをつけるなどして,引きやすくなるよう工夫しておく。(30分)

【事後学修】授業で使用したノートや参考資料などを見直すことや,授業で取り扱い学修した法規等を教育六法で再度読み直すことなどに取り組む。(30分)

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】2019年度版 『必携 教職六法』 協同出版

【参考図書】坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編著 『学校教育制度概論』玉川大学出版部



科目名	学校制度論 B		
担当教員名	松本 邦文		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

この科目は、中学校・高等学校の教諭の免許状、養護教諭の免許状、栄養教諭の免許状を取得希望のある学生にとっては、免許取得のための「教職に関する科目」の一つで「必修科目」である。

#### 科目の概要

- 1 基本的な学校関係法規についての学修を通して、我が国の学校教育に関する制度や学校教育の実施についての基本事項について理解を深めていく。
- 2 毎回の授業ごとに、学校教育の制度について配布された資料や関係法規等を基に、プリントやノートにまとめたり考えを記述したりして、学校制度について自分の考えを持つ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

- 1 学校教育に関する基本的な法規及び制度について理解する。
- 2 教育法規に関する学習を通して、日本の教育制度についての自分の考えが持てる。

#### 内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを随時取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス。教育の目的及び理念。学校教育の目的・目標に関する事項
2	学校の種類・設置に関する事項
3	入学から卒業までにおける教育関係法規に関する基本的事項
4	教育行政の仕組みと新教育委員会制度・総合教育会議に関する事項
5	学習指導要領及び教育課程の編成、教科用図書等の教材に関する事項
6	教職員の組織、職務、服務、免許等に関する事項
7	就学、学級編成に関する事項
8	学校制度の変遷に関する事項(1)(戦前の学校教育制度の変遷)
9	学校制度の変遷に関する事項(2)(戦後の教育改革の変遷)
10	現代の教育課題と学校制度(1)(安全・自然災害)
11	現代の教育課題と学校制度(2)(健康・食の安全)
12	現代の教育課題と学校制度(3)(いじめ)
13	現代の教育課題と学校制度(4)(不登校)
14	学校と地域との連携と協働(学校評価、学校運営を含む)
15	まとめ

## 評価

授業への参加度(毎授業時の課題に対する見方・考えを評価する) 30%, 小まとめ・小テスト 20%, 筆記試験 50%等により総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートは、コメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

## 授業外学習

【事前予習】教育六法を使って、基本的な法規などに当たるとともに、主な法規ページにインデックスをつけるなどして、引きやすくなるよう工夫しておく。(30分)

【事後学修】授業で使用したノートや参考資料などを見直すことや、授業で取り扱い学修した法規等を教育六法で再度読み直すことなどに取り組む。(30分)

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】2019年度版 『必携 教職六法』 協同出版

【参考図書】坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編著 『学校教育制度概論』 玉川大学出版部

科目名	教育課程論 B		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

各学科におけるディプロマポリシーの、1及び2に対応する講義です。

#### 科目の性格

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」の中の「教育課程の意義及び編成の方法」について学修する。

#### 科目の概要

各学校における教育は、各学校の教育課程によって進められる。教育課程の歴史、法的根拠、諸外国との比較により、教育課程の意義、及び編成の方法を学ぶ。

#### 学修目標

- ・教育課程の意味や史の変遷が理解できる。
- ・学習指導要領と教育課程編成の関係が理解できる。
- ・教育課程の編成の手続き、教育課程の果たす役割が理解できる。

### 内容

アクティブラーニングとして、討論、学生の発表、省察、リアクションペーパーとその交流を図ります。

- 【第1回】学校教育と学校を取り巻く教育環境の変化
- 【第2回】教育課程の意義と教育課程編成・実施に関する法制
- 【第3回】教育課程と学習指導要領
- 【第4回】教育課程と教科書制度
- 【第5回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(1)
- 【第6回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(2)
- 【第7回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(3)
- 【第8回】新学習指導要領の特徴と教育課程の編成
- 【第9回】新学習指導要領と教育課程の編成 小学校
- 【第10回】新学習指導要領と教育課程の編成 中学校
- 【第11回】新学習指導要領と教育課程の編成 高等学校
- 【第12回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(1)
- 【第13回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(2)
- 【第14回】教育課程の評価方法及び教育課程の改善
- 【第15回】まとめ これからの時代における教育課程のあり方

### 評価

授業への参加(20点)、課題への取組(40点)、まとめのレポート(40点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

- 【フィードバック】各授業ごとにリアクションペーパーを書き、その内容を次回の授業時に紹介し、内容の定着を図る。

## 授業外学習

【事前予習】カリキュラムのあり方について、予想や仮説を持ち、経験をもとに疑問点をまとめて講義に臨む（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を踏まえ、カリキュラムのあり方を再度考察し、ノートづくりを行なう（各授業に対して60分）。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】学習指導要領 中学校

【推薦書】

・奈須正裕『よくわかる 小学校・中学校 新学習指導要領全文と要点解説』教育開発研究所

・澤井陽介『授業の見方 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』東洋館出版社ベスト新書

【参考図書】随時紹介

科目名	教育課程論 B		
担当教員名	高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

各学科におけるディプロマポリシーの、1及び2に対応する講義です。

#### 科目の性格

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」の中の「教育課程の意義及び編成の方法」について学修する。

#### 科目の概要

各学校における教育は、各学校の教育課程によって進められる。教育課程の歴史、法的根拠、諸外国との比較により、教育課程の意義、及び編成の方法を学ぶ。

#### 学修目標

- ・教育課程の意味や史の変遷が理解できる。
- ・学習指導要領と教育課程編成の関係が理解できる。
- ・教育課程の編成の手続き、教育課程の果たす役割が理解できる。

## 内容

アクティブラーニングとして、討論、学生の発表、省察、リアクションペーパーとその交流を図ります。

- 【第1回】学校教育と学校を取り巻く教育環境の変化
- 【第2回】教育課程の意義と教育課程編成・実施に関する法制
- 【第3回】教育課程と学習指導要領
- 【第4回】教育課程と教科書制度
- 【第5回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(1)
- 【第6回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(2)
- 【第7回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(3)
- 【第8回】新学習指導要領の特徴と教育課程の編成
- 【第9回】新学習指導要領と教育課程の編成 小学校
- 【第10回】新学習指導要領と教育課程の編成 中学校
- 【第11回】新学習指導要領と教育課程の編成 高等学校
- 【第12回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(1)
- 【第13回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(2)
- 【第14回】教育課程の評価方法及び教育課程の改善
- 【第15回】まとめ これからの時代における教育課程のあり方

## 評価

授業への参加(20点)、課題への取組(40点)、まとめのレポート(40点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

- 【フィードバック】各授業ごとにリアクションペーパーを書き、その内容を次回の授業時に紹介し、内容の定着を図る。

## 授業外学習

【事前予習】カリキュラムのあり方について、予想や仮説を持ち、経験をもとに疑問点をまとめて講義に臨む（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を踏まえ、カリキュラムのあり方を再度考察し、ノートづくりを行なう（各授業に対して60分）。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】学習指導要領 中学校

【推薦書】

・奈須正裕『よくわかる 小学校・中学校 新学習指導要領全文と要点解説』教育開発研究所

・澤井陽介『授業の見方 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』東洋館出版社ベスト新書

【参考図書】随時紹介

科目名	道徳教育 B		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

#### 科目の概要

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から実施される「特別の教科 道徳」について、成立に至った経緯について理解する。あわせて、道徳および道徳教育の本質について理解を深める。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら思考し、判断し、道徳的に行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

#### 学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と「道徳科」の授業の果たす役割について理解し、「道徳科」の授業のあり方について考察する。
- ・学習指導案をはじめとして、「道徳科」の授業の進め方について理解する。

### 内容

本授業は、講義を中心に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら進めていく。

1	現代社会と道徳
2	道徳とは、道徳的に行動するとは / 道徳教育の特質
3	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、目標、内容等について
4	道徳科成立の背景、目標、内容
5	学校における道徳教育のあゆみ
6	教材の分析について
7	学校における道徳教育の年間指導計画と道徳科の特質(考え、議論する道徳)について
8	道徳科における指導方法と授業について(自我関与的な学習)
9	道徳科における指導方法と授業について(問題解決的な学習)
10	学習指導案について
11	道徳科における評価について
12	道徳性の発達について
13	道徳性の発達について
14	モラル・ディスカッション・アプローチについて
15	まとめ

### 評価

レポートおよび課題提出70点、授業への取り組み(リアクションペーパーの内容を含む)30点の合計100点とし、6

0点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週以降の授業内にて紹介し、コメントし、質問等に答える。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく(30分)。提出課題については、発表も含めて、十分に準備する(一つの課題につき2時間程度)

【事後学修】文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(文部科学省ホームページ掲載)について、授業時に扱った箇所を熟読する(30分)。ノートのまとめを行う(30分)。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示する。

【推薦書】授業時に適宜、紹介する。

【参考書】文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』、文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』。ほか授業時に提示する。



科目名	特別活動 B		
担当教員名	小池 幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教育職員免許法施行規則(改正前・旧課程)に定める、中学校教諭・高等学校教諭の普通免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものであり、また、養護教諭・栄養教諭の普通免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程に関する科目」に対応するものでもある。受講者は、必ず履修を完了させる。

#### 科目の概要

学校教育法施行規則に定められた中・高等学校の「教育課程」である「特別活動」は、学級活動(高等学校はホームルーム活動)・生徒会活動・学校行事の3つの内容で構成され、これらを、目標である「集団や社会の形成者・・・」を基に、「為すことによって学ぶ」ことを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点からの資質・能力を、生徒に身に付けていく教育活動である。

#### 学修目標(=到達目標)

ア 特別活動の3つの特質である「望ましい集団活動」「自主的活動」「実践的活動」の理解と、個人や集団に対して、教員としての心構えや適切な係わり方を身に付ける。

イ 「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」の各内容の理解と実践的な指導方法を身に付ける。

ウ 3つの内容展開の中核である「合意形成」及び「意思決定」に至る2つの「話し合い」の方法を理解するとともに、その実践的な指導力を身に付ける。

#### 内容

本授業は、グループワーク・ディスカッション等を中心に展開する。また、模擬授業や場面指導等も設定し、「自ら気付き、考え、実行する」個々の積極的な係わりも具現化する。授業への参加は、受講者一人一人の「意見・考え・願い」等の発表が絶対条件になる。

中学校、高等学校とも3つの内容で構成されているが、中学校では学級活動と呼称し、高等学校ではホームルーム活動と呼称する。本授業では、学級活動・ホームルーム活動は学級活動として表記する。

1	授業の内容、方向性に関するオリエンテーション及び教育課程における特別活動の位置付け
2	特別活動の目標と3つの内容(学級活動・生徒会活動・学校行事)の係わり
3	特別活動における2つの話し合い方法(合意形成・意思決定に至る話し合い)と学級活動の関連
4	生徒会活動・学校行事の指導と評価の在り方
5	模擬授業実施に向けた学級活動(1)の指導案作成その1(指導案作成手順と評価)
6	模擬授業実施に向けた学級活動(1)の指導案作成その2(グループワークを中心)
7	指導案に基づいた学級活動(1)の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
8	学級活動(2)の「ウ」心身ともに健康で安全な生活態度の形成の内容理解
9	学級活動(2)の「エ」食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成の内容理解
10	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その1(指導案作成手順と評価)
11	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その2(グループワークを中心)

12	模擬授業実施に向けた学級活動(2)(3)の指導案作成その3(グループワークを中心)
13	指導案に基づいた学級活動(2)(3)の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
14	特別活動と学級経営・人間関係形成・社会参画・自己実現及び3つの学びの係わり
15	今日的教育課題に係わる特別活動の必要性と重要性

## 評価

授業への参加度30%、毎回のリアクションペーパー・課題レポート等30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、事前に一つ一つ確認し、本時最初に返却するとともに、全体の共通課題となった質問や疑問を解決した後、授業展開を図る。

## 授業外学習

【事前準備】本時の授業内容の教科書等の該当ページを熟読し、要点をまとめるとともに、自分の意見や思い、願い等を別枠に自分の言葉で記し、課題レポートを作成しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】本時の学習課題を自分の言葉でまとめるとともに、授業中に指示されたホームページの閲覧や、関係するキーワードの図書館等での確実な調査を行っておく。(各授業に対して60分)

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』 政府刊行物(東洋館出版社)

文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』 政府刊行物 (東山書房)

【推薦書】O・F・ボルノウ著 森昭・岡田渥美訳『教育を支えるもの』 黎明書房(2006年)

【参考図書】文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 政府刊行物 (東山書房)

科目名	教育方法B		
担当教員名	星野 敦子、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

各学科の学位授与方針1に該当する。中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」、「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

#### 内容

講義を中心として、グループワーク、ディスカッションを取り入れた授業を行う。

第1回：教育の方法・技術に関わる基礎概念(安達・星野)

第2回：教育方法の理論と歴史(星野)

第3回：学習理論の展開(星野)

第4回：カリキュラム開発と類型(星野)

第5回：教育評価の理論(星野)

第6回：新しい教育評価の方法(星野)

第7回：教育課程と学習指導要領(星野)

第8回：授業における教師の役割と指導技術(安達)

第9回：教授組織と学習組織(安達)

第10回：授業設計の手順と教材(安達)

第11回：教育メディアの活用(安達)

第12回：ICTを活用した授業設計(安達)

第13回：情報活用能力と情報モラルの指導(安達)

第14回：総合課題(安達)

第15回：まとめ(安達・星野)

#### 評価

1 授業ごとの課題提出(30%)

2 最終試験の達成度(70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る(2時間)

【事後学修】総合課題の見直し(1時間)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

**【教科書】**

特に定めない

**【参考書・推薦書】**

- ・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化
- ・松田稔樹他著 学習者とともに取り組む授業改善 学文社

科目名	生徒指導・進路指導 B		
担当教員名	飯塚 睦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教職免許法に定められた「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」として開講する。教員として不可欠な生徒理解、問題行動等の未然防止、キャリア教育の推進、組織的な生徒指導の在り方等について学修するとともに、自分自身の生き方を考える。

#### 科目の概要

中高の教員に必要な、生徒指導及び進路指導・キャリア教育を円滑に進めていくために必要な知識・技能、指導力を身につける。

#### 学修目標(=到達目標)

- 1) 教育課程における生徒指導の位置付けや生徒指導の重要性、集団指導・個別指導の方法、生徒指導体制の基礎的な考え方を理解する。
- 2) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解し、中学校における具体的な進路指導を理解する。
- 3) 事例研究を通して、指導力を身に付ける。

#### 内容

主体的・対話的で深い学びを通して、生徒指導、進路指導の知識を深め、実践力を養う。

1	ガイダンス、学生の生徒指導上の体験を振り返る
2	学習指導と生徒指導は両輪について
3	生徒指導でつきたい力とは
4	生徒指導上の問題をいかに解決するか 事例 1
5	生徒指導上の問題をいかに解決するか 事例 2
6	再発防止のための指導とは
7	健全な成長を促すための指導とは
8	児童生徒理解とは
9	学校のあらゆる場面での指導とは
10	生徒指導を活かしたより良い授業とは
11	給食の時間における生徒指導とは
12	教師による「懲戒」と「体罰」とは
13	いじめ問題について 事例 3
14	進路指導・キャリア教育とは
15	中学校における進路指導の進め方

#### 評価

アクティブ・ラーニングの参加態度(40点)、質問紙の提出(10点)、筆記試験

(50点)を総合評価する。試験は評価し、翌週以降の授業で返却する。

#### 授業外学習

【事前準備】教科書を読み、課題をまとめる、(60分)

【事後学修】毎回の授業の課題を完成する。(60分)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『生徒指導提要』,文部科学省,教育図書

科目名	教育相談 B		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

#### 科目の概要

学校現場では不登校・いじめ・校内暴力・非行・虐待・貧困・学級崩壊などさまざまな問題が生じている。学校に通う児童生徒に発達障害・引きこもり・摂食障害など心理学的課題を数多く抱えているものがある。本講義では教育相談に必要な基本的知見の獲得、教育相談への理解を深めることを狙いとする。具体的には、教育相談に関係する相談援助技術に関する諸理論、問題理解のための基礎知識や理解の仕方、実際の困難例、外部機関との連携方法などについて実践的要素を組み入れた講義を行う。

#### 学修目標 (= 到達目標)

(1)教育相談の重要性を認識し、学校教育における児童生徒指導するために身に付けておくべきカウンセリングに関する理論と技法等の基礎知識を習得すること、また個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や地域・社会・家庭の連携についても学び習得することを目指す。

#### 内容

この授業は講義を中心に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンを取り入れながら学びを深めていく。

1	教育相談とは何か。今日的課題について
2	学校教育における「教育相談」の位置づけと役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	論教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応：不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応：いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応：発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応：非行
12	教育相談の実際(事例から学ぶ)：校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ)：家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ)：事件・事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度 10% 毎回のレポート10% プレゼン20% 試験60%により評価を行い、60点以上を合格とする。  
【フィードバック】毎授業で前回授業の内容についての質疑への返答、教員採用試験問題の検討を行う。レポートについてはコメントを記載し、返却する。試験については試験後に解答し、質疑応答時間を設ける。

#### 授業外学習

【事前準備】最近の児童生徒を取り巻く問題について新聞、ネット（出所を明確にする）等で調べ、資料を作成しておく。各自がテーマを選択し、プレゼンを行う。（各授業に対して45分、プレゼン準備に180分）【事後学修】授業で取り上げたテーマについてホームページ、新聞、図書で調べ、各自内容の理解を深め、教員採用試験問題を検討しておく。（各授業に対して45分）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】森田健宏・吉田佐治子編著 教育相談 ミネルヴァ書房

漆澤恭子 編著 クラスと授業のユニバーサルデザイン 明治図書

学校心理士資格認定委員会 編 学校心理学ガイドブック 風間書房



科目名	生徒指導		
担当教員名	飯塚 睦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

「教科に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」（教育職員免許法に規定）である。演習を主とし行い、生徒指導が児童・生徒一人一人の個性の伸長を図るとともに、社会的資質や行動力を育成するものである。教員として必要不可欠な生徒理解、問題行動等の未然防止やキャリア教育の推進、学校が組織的に児童・生徒の指導育成を進める方策などを学修する。

##### 科目の概要

生徒指導は、学習指導とともに学校教育の重要な機能であり、児童・生徒の人間性の発達を支援することや、自己肯定感を高め、自律的に行動する資質や能力を高めること。家庭や地域社会、教育相談機関等の青少年の健全育成諸機関等との連携を図る方策などを修得するものとする。

##### 学修目標 (= 到達目標)

各種の心理検査法等を概観し、児童・生徒理解の方法を理解し、事例研究法により生徒指導の方策を身に付ける。児童生徒の心身の発達に係る概念や発達を促す指導方法を身に付ける。児童生徒の意識調査や「風景構成法」の援用により、児童生徒とのよい人間関係づくりや深い生徒理解に基づく指導とその方法を身に付ける。いじめや不登校、反社会的な行動の予測と対応並びに問題行動等の未然防止に係る実践的な指導力や、キャリア教育の方途を修得し、自己肯定感を高める指導・援助の方策を身に付ける。

#### 内容

知識や技術に加え、思考力や判断力、対話力、学びに向かう力を育て、心豊かで積極的に社会参加し、自己を活かしているようとする児童・生徒を育成することが必定である。このため、教師にならんとする者は、幼児期から児童期、青年期に至る発達段階のそれぞれの特性を深く理解し、実際に即した指導力を身に付けなければならない。本講座では、問題解決討議法、役割等技法、事例研究法、シミュレーション技法等を援用し、生徒指導に係る諸課題の解決に資する知識や技能の修得と活用を行う。

1	1. 授業説明。生徒指導上の体験の確認について。
2	2. 生徒指導で児童生徒につけたい力について。
3	3. 生徒指導上の問題発生時の指導について。個別指導。
4	4. 生徒指導上の問題発生時の指導について。集団指導。
5	5. 生徒指導上の問題の再発防止、予防的指導について。
6	6. 健全な成長（教育の目的）を促すための指導について。
7	7. 「生徒指導は児童理解に始まり、児童理解に終わる」、児童理解について。
8	8. 全ての教育の場における生徒指導について。
9	9. 生徒指導を活かした、より良い授業について。
10	10. 生徒指導を活かした、授業以外の場面での指導について。
11	11. 教師による「懲戒」と「体罰」について。
12	12. いじめ問題について。

13	13. 積極的な生徒指導について。
14	14. 組織的な生徒指導について。
15	15. 学級担任としての生徒指導の力量について。

## 評価

アクティブラーニングの授業態度40%、質問紙10%、筆記テスト50%。テストは評価し、翌週以降の授業内で返却する。

## 授業外学習

【事前予習】テキスト『生徒指導提要』を読み込む。事前課題に取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】ノートの一部を学習の振り返りスペースとして利用し、要点を整理する。（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『生徒指導提要』文部科学省 教育図書株式会社

科目名	道徳教育・特別活動論		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教育職員免許法及び同施行規則に定められた教職に関する科目のうち栄養教諭免許取得に必要な「教育課程に関する科目」に当たります。栄養教諭一種免許状を取得しようとする場合は必修に、また栄養教諭二種免許状を取得しようとする場合は選択必修になります。

#### 科目の概要

学習指導要領に示された道徳及び特別活動それぞれの趣旨にそった指導ができるよう、模擬授業等も交え、具体的に考察します。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・ 特別の教科である道徳科について考察し、理解する。
- ・ 特別活動の領域ごとの特色について理解し、指導の在り方を考察する。
- ・ 道徳科及び特別活動の各領域の指導の在り方を理解し、それぞれの学習指導案を作成する。

#### 内容

講義を中心として、基礎的；基本的事項の理解を図ります。また、模擬授業を実施し、グループワークを通じて意見交換をする中で、よりよい指導の在り方について考察します。

1	オリエンテーション ( 授業の進め方と学修目標 )
2	学校における道徳教育の目標と意義
3	特別な教科「道徳科」の内容
4	道徳科の指導と評価
5	道徳教育推進教師の役割
6	特別活動の目的と展開
7	学級活動について ( 1 )
8	学級活動について ( 2 )
9	生徒会活動について
10	学校行事について ( 1 )
11	学校行事について ( 2 )
12	指導案の考察 ( 1 )
13	指導案の考察 ( 2 )
14	指導案の発表
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度と(30点)、小レポート(30点)、指導案の作成・発表及びまとめ(40点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの内容をシェアリングする。

#### 授業外学習

【事前準備】教科書の該当ページを読んでから授業に臨む。(各授業に対して30分)

【事後学修】毎回の授業後に、所定のレポートを提出する。(各授業に対して30分)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(文部科学省 平成29年7月)

中学校学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省 平成29年7月)

科目名	保健科教育法		
担当教員名	七木田 文彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

小学校、中学校、高等学校の学習指導要領における保健科教育全体の教育課程を学ぶ。保健科教育の目標や内容を押さえ、教育実践に展開するための考え方を学ぶ。

学校教育における保健教育の役割を理解する。また、保健授業のデザインと創造的実践の方法について、様々な学習者論、教育内容論、教材・教具論、指導論を学習し、習得する。

#### 内容

1	学校・授業での学習経験
2	保健科教育の歴史
3	教育課程・教育内容論
4	保健の教材・教具論
5	教授行為 (子どもへの働きかけ) について
6	学習者論 (子どもの学びについて)
7	保健授業の組織論 (授業の多様な学習形態)
8	保健担当教員の力量形成 (授業研究と研修)
9	保健授業の評価
10	授業改革論
11	授業の実践事例
12	保健授業の事例 1 (応急手当の授業)
13	保健授業の事例 2 (病気の予防の授業)
14	保健授業の事例 3 (がん教育)
15	まとめ

#### 評価

授業内に出題する課題について評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】課題発表を多く設ける。発表の準備 (個人・グループ) と予習が必要である。

【事後学修】学習した内容をまとめるために 1 時間程度の復習が必要である。

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキスト: 文部科学省 学習指導要領解説 (小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編)

参考書 : 適宜指示する

科目名	保健科教育法		
担当教員名	七木田 文彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本科目は教員の免許状取得のための必修科目である。中学校・高等学校の保健科教諭の普通免許を取得するために定められた「教育課程及び指導法に関する科目」である。

授業展開にそって単元指導計画と学習指導案の作成を行いながら、授業デザインの方法を学ぶ。

保健科教育法 で学習した知識と理論を踏まえて、また、保健科教育法 で学習した知識や技能を活用しつつ、教材研究や教材作成を行う。

#### 内容

1	中学校・高等学校における保健授業の実際
2	中等教育における保健の教育内容の変遷 (健康課題と学習指導要領・教科書)
3	学習指導要領・検定教科書の作成プロセス
4	保健科教育内容の編成 1 (中学校の保健科内容の編成)
5	保健科教育内容の編成 2 (高等学校の保健科内容の編成)
6	教材作成・教授の方法 1 (性教育の授業・教材づくりを中心に)
7	教材作成・教授の方法 2 (算数の教材との比較から保健教材の特徴を考える)
8	教材作成・教授の方法 3 (社会科教材との比較から保健教材の特徴と考える)
9	教材作成・教授の方法 4 (国語教材との比較から保健教材の特徴と考える)
10	保健科教育の研究動向 1 (教育内容・教材論を中心に)
11	保健科教育の研究動向 2 (教授方法・学習者論を中心に)
12	保健科教育の研究動向 3 (行動科学・ライフスキルを中心に)
13	学習指導案の作成と評価 (指導要録の作成を含む)
14	保健授業におけるオーセンティックな学び
15	まとめ

#### 評価

授業内に出題する課題において評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】課題発表の機会を多く設定する。発表の準備 (個人・グループ) と予習が必要である。

【事後学修】学習した内容をまとめるために 1 時間程度の復習が必要である。

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキスト：文部科学省 学習指導要領解説 (小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編)

参考書：適宜指示する

科目名	保健科教育法		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

本講義は教職に関する科目「教育課程及び指導法に関する科目」の保健指導法に位置する。

#### 科目の概要

保健科教育法 ・ を受けて開講する科目であり、内容は高等学校科目保健の教育内容を扱う。

「保健」の教員免許取得希望者は本講義と後期に開講する保健科教育法 を受講することを勧める。

また、養護教諭免許取得希望者も保健の授業を担当する機会が増えている事から受講することを勧める。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・ 小学校保健領域、中学校保健分野の内容と高等学校科目保健の違いを理解できる。
- ・ 高等学校科目保健の教育実践事例を学び、その指導法を習得できる。

#### 内容

この授業は指導案を作成し模擬授業を展開することで保健科教育を実践的に学んでいく。

1	ガイダンス、教育課程における保健教育
2	高等学校科目保健の特徴
3	評価の方法
4	プレゼンテーションスキル・ディベートトレーニング
5	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
6	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
7	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
8	模擬授業と授業分析
9	模擬授業と授業分析
10	模擬授業と授業分析
11	模擬授業と授業分析
12	模擬授業と授業分析
13	模擬授業と授業分析
14	まとめ
15	まとめ



## 評価

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。模擬授業作成の取り組み、模擬授業80%、筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された模擬授業コメントカードは授業内で評価をする。筆記試験は最終日のまとめにて返却し解説をする。

## 授業外学習

【事前準備】指導案の作成や模擬授業準の時間が必要（各模擬授業に対して3～4時間）

【事後学修】模擬授業等の振り返り、改善指導案の提出等（各模擬授業に対して1～2時間）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校保健体育科教科書、高等学校保健体育科教科書、文部科学省高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）

【推薦書】講義時に紹介する

【参考図書】文部科学省学習指導要領解説（小学校体育編・中学校保健体育編）

科目名	保健科教育法		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

本講義は教職に関する科目「教育課程及び指導法に関する科目」の保健指導法に位置する。

#### 科目の概要

保健科教育法 を受けて開講する科目であり、内容は高等学校科目保健の教育内容を扱う。中・高教諭一種免許状「保健」の取得希望者は受講することを勧める。また、養護教諭免許状取得希望者も保健の授業を担当する機会が増えていることから受講することを勧める。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・ 小学校保健領域、中学校保健分野の内容と高等学校科目保健の違いが理解できる。
- ・ 高等学校科目の保健の教育実践例を学び、その指導法を習得できる。

#### 内容

この授業は指導案を作成し、模擬授業を展開することで保健科教育を実践的に学んでいく。

1	ガイダンス
2	専門講師による保健教育の実際
3	担当模擬授業の指導案作成と模擬授業準備
4	担当模擬授業の指導案作成と模擬授業準備
5	担当模擬授業の指導案作成と模擬授業準備
6	模擬授業と授業分析
7	模擬授業と授業分析
8	模擬授業と授業分析
9	模擬授業と授業分析
10	保健学習と保健指導の違い
11	保健指導実践
12	保健指導実践
13	保健指導実践
14	まとめ
15	まとめ

#### 評価

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。模擬授業作成の取り組み、模擬授業80%、筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された模擬授業コメントカードは授業内で評価をする。筆記試験は最終日のまとめにて返却し解説をする。

#### 授業外学習

【事前準備】指導案の作成や模擬授業準備の時間が必要（各模擬授業に対して3～4時間）

【事後学修】模擬授業等の振り返り、改善指導案の提出等（各模擬授業に対して1～2時間）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校保健体育教科書、高等学校保健体育教科書、文部科学省高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）

【推薦書】講義内で紹介する

【参考図書】文部科学省学習指導要領解説（小学校体育編・中学校保健体育編）

科目名	保健体育科教育法		
担当教員名	相馬 満利、若葉 京良、神田 俊平、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

健康栄養学科の学位授与方針 2.3 に該当する。 本科目は、教職課程における中学校・高等学校一種免許状(保健体育)取得のための必須科目である。第4年次に行う教育実習の実践的力量的基礎となるため、「保健体育 体育分野」の基礎的知識に加え「学習・授業の在り方」について探求すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して授業計画・教材研究が求められている。

#### 科目の概要

中学校の「保健体育 体育分野」の学習指導について授業の実践例をもとに授業のあり方を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、指導方法を学修する。

#### 学修目標(=到達目標)

1. 中学校の「保健体育 体育分野」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を理解する。 2. 教科書や学習指導要領(保健体育編)の内容を深める。
3. 学習指導法に係る基礎理論・知識を習得し、自ら主体的に教材研究を行うとともに、教科の特性をを活かした学習指導案の作成と指導方法・指導技術を実践する。

#### 内容

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

1	体育の目標・内容の変遷をおさえ、現行の学習指導要領の内容を確認する。
2	運動の特性のとらえ方、体育学習の基本原則を確認する。
3	「A 体づくり運動」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
4	「B 器械運動」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
5	「C 陸上競技」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
6	「D 水泳」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
7	「E 球技」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
8	「F 武道」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
9	「G ダンス」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
10	「A 体づくり運動」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
11	「B 器械運動」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
12	「C 陸上競技」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
13	「E 球技」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
14	「G ダンス」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。

**評価**

授業への取り組み30%、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート20%、模擬授業40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

**授業外学習**

【事前準備】次時の内容として示されたテーマについて、教材研究をし、指導案をの構造を練る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を踏まえ、与えられたテーマについて指導案を作成する。（各授業に対して60分）

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】中学校学習指導要領解説「保健体育」

【推薦書】高橋健夫「体育科教育学入門」大修館書店

科目名	保健体育科教育法		
担当教員名	相馬 満利、高橋 京子、神田 俊平		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

健康栄養学科の学位授与方針 2.3 に該当する。本科目は、教職課程における中学校・高等学校一種免許状(保健体育)取得のための必須科目である。第4年次に行う教育実習の実践的力量的基礎となるため、「保健体育 体育分野」の基礎的知識に加え「学習・授業の在り方」について探求すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して授業計画・教材研究が求められている。

#### 科目の概要

中学校の「保健体育 体育分野」の学習指導について授業の実践例をもとに授業のあり方を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、指導方法を学修する。

#### 学修目標(=到達目標)

1. 中学校の「保健体育 体育分野」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を理解する。2. 教科書や学習指導要領(保健体育編)の内容を深める。
3. 学習指導法に係る基礎理論・知識を習得し、自ら主体的に教材研究を行うとともに、教科の特性をを活かした学習指導案の作成と指導方法・指導技術を実践する。

#### 内容

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

1	保健科教育の変遷をおさえる。
2	現行の学習指導要領の内容を確認する。
3	保健授業を体験し、保健分野の授業の基本原則を確認する。
4	保健分野の教材研究 「心身の機能の発達と心の健康」の教材を検討する。
5	保健分野の教材研究 「健康と環境」の教材を検討する。
6	保健分野の教材研究 「傷害の防止」の教材を検討する。
7	保健分野の教材研究 「健康な生活と疾病の予防」の教材を検討する。
8	指導案の作成 模擬授業を担当する単元の指導案を作成する。
9	指導案の作成 模擬授業を担当する単元の指導案を作成し、授業準備をする。
10	指導案の作成 模擬授業を担当する単元の指導案を完成し、授業準備を完了する。
11	模擬授業 「心身の機能の発達と心の健康」について模擬授業を実施する。
12	模擬授業 「健康と環境」について模擬授業を実施する。
13	模擬授業 「傷害の防止」について模擬授業を実施する。
14	模擬授業 「健康な生活と疾病の予防」について模擬授業を実施する。

**評価**

授業への取り組み30%、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート20%、模擬授業40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

**授業外学習**

【事前準備】次時の内容として示されたテーマについて、教材研究をし、指導案をの構造を練る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を踏まえ、与えられたテーマについて指導案を作成する。（各授業に対して60分）

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】中学校学習指導要領解説「保健体育」

【推薦書】家田重晴「保健科教育」杏林書院

科目名	保健体育科教育法		
担当教員名	相馬 満利、若葉 京良、神田 俊平		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

健康栄養学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。 本科目は、教職課程における中学校・高等学校一種免許状 (保健体育) 取得のための必須科目である。第4年次に行う教育実習の実践的力量的基礎となるため、「保健体育 体育分野」の基礎的知識に加え「学習・授業の在り方」について探求すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して授業計画・教材研究が求められている。

#### 科目の概要

高等学校の「保健体育 体育分野」の学習指導について授業の実践例をもとに授業のあり方を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、指導方法を学修する。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- 1 . 高等学校の「保健体育 体育分野」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を理解する。 2 . 教科書や学習指導要領 (保健体育編) の内容を深める。
- 3 . 学習指導法に係る基礎理論・知識を習得し、自ら主体的に教材研究を行うとともに、教科の特性をを活かした学習指導案の作成と指導方法・指導技術を実践する。

#### 内容

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

1	現行の高等学校学習指導要領の「保健体育 体育」の内容を確認する。
2	高等学校保健体育の変遷を確認する。
3	「A 体づくり運動」「B 器械運動」の領域の特性を確認し、具体的な指導方法を学ぶ。
4	「C 陸上競技」「D 水泳」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
5	「E . 球技」「F . 武道」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
6	「G . ダンス」「H . 体育理論」の領域の特性を押さえ、具体的な指導方法を学ぶ。
7	「内容の取扱い」を確認し、種目選択・領域選択の進め方を確認する。
8	「A 体づくり運動」の模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
9	「B 器械運動」の種目選択を取り入れた模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
10	「C 陸上競技」の種目選択を取り入れた模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
11	「E . 球技」の種目選択を取り入れた模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
12	「G . ダンス」の種目選択を取り入れた模擬授業を実施し、指導方法を確認する。
13	「H . 体育理論」「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」を実施し、指導方法を確認する。
14	「H . 体育理論」「豊かなスポーツライフの設計の仕方」を実施し、指導方法を確認する。



**評価**

授業への取り組み30%、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート20%、模擬授業40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

**授業外学習**

【事前準備】次時の内容として示されたテーマについて、教材研究をし、指導案をの構造を練る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を踏まえ、与えられたテーマについて指導案を作成する。（各授業に対して60分）

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編

【推薦書】高橋健夫『体育科教育学入門』大修館書店

科目名	保健体育科教育法		
担当教員名	相馬 満利、高橋 京子、若葉 京良、神田 俊平		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

健康栄養学科の学位授与方針 2.3 に該当する。本科目は、教職課程における中学校・高等学校一種免許状(保健体育)取得のための必須科目である。第4年次に行う教育実習の実践的力量的基礎となるため、「保健体育 体育分野」の基礎的知識に加え「学習・授業の在り方」について探求すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して授業計画・教材研究が求められている。

#### 科目の概要

高等学校の「保健体育 体育分野」の学習指導について授業の実践例をもとに授業のあり方を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業を実施し、指導方法を学修する。

#### 学修目標(=到達目標)

1. 高等学校の「保健体育 体育分野」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を理解する。2. 教科書や学習指導要領(保健体育編)の内容を深める。
3. 学習指導法に係る基礎理論・知識を習得し、自ら主体的に教材研究を行うとともに、教科の特性をを活かした学習指導案の作成と指導方法・指導技術を実践する。

#### 内容

この授業は、講義「保健体育科教育の変遷や教員としての在り方や資質、指導力」を基に、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら、保健体育とは何を指すのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのか、評価とは何かなどについて学び、それらを保健体育教員としての資質や能力、実践的指導力の育成へと発展させていく。

1	高等学校「保健体育 保健」の変遷をおさえる。
2	現行の学習指導要領の内容を確認する。
3	「保健」の授業を体験し、知識を活用する学習活動についての理解を深める。
4	「保健」の授業を体験し、実証的な問題解決を行う活動についての理解を深める。
5	「保健」の教材研究 「現代社会と健康」の教材を検討する。
6	「保健」の教材研究 「生涯を通じる健康」の教材を検討する。
7	「保健」の教材研究 「社会生活と健康」の教材を検討する。
8	「保健」の指導案の作成 模擬授業を担当する単元の指導案を作成する。
9	「保健」の指導案の作成 模擬授業を担当する単元の指導案を作成し、授業準備をする。
10	「保健」の指導案の作成 模擬授業を担当する単元の指導案を完成し、授業準備を完了する。
11	模擬授業 「現代社会と健康」で、模擬授業を実施する。
12	模擬授業 「生涯を通じる健康」で、模擬授業を実施する。
13	模擬授業 「社会生活と健康(環境と健康・環境と食品の保健)」で、模擬授業を実施する。
14	模擬授業 「社会生活と健康(労働と健康)」で、模擬授業を実施する。

**評価**

授業への取り組み30%、毎回のリアクションペーパー等10%、レポート20%、模擬授業40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

**授業外学習**

【事前準備】次時の内容として示されたテーマについて、教材研究をし、指導案をの構造を練る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を踏まえ、与えられたテーマについて指導案を作成する。（各授業に対して60分）

**教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）**

【教科書】高等学校学習指導要領解説「保健体育」

【推薦書】家田重晴『保健科教育』杏林書院

科目名	国語科教育法		
担当教員名	寺西 裕子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

中学校・高等学校 (国語) 教員免許取得のための必修科目。本科目では国語科の授業を行う際の基本的な知識・技能について学ぶ。

#### 科目の概要

学習指導要領や学習指導理論について学んだ後、先行の優れた指導事例を参考に、学習指導の方法を実践的に学ぶ。実際に授業を担当する際の諸技法の基礎を学習する。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

1. 国語科教育の目標や内容、各分野の指導理論の概要を理解する。
2. 先行の優れた指導事例を参考に、学習指導の方法を学習する。
3. 学習指導案の作成を通して授業実践の基礎的な知識、技法を習得する。

#### 内容

この授業は、講義をもとに、グループワークやディスカッション、実技を取り入れながら、学びを深めていく。

1	国語科教育法 の概要、学習目標を知る
2	学習指導要領の概要について
3	学習指導要領と学習指導の実際について
4	教材研究の方法について
5	学習指導案の作成方法について
6	「知識及び技能」学習指導研究 ( 1 )
7	「知識及び技能」学習指導研究 ( 2 )
8	「話すこと・聞くこと」学習指導研究 ( 1 )
9	「話すこと・聞くこと」学習指導研究 ( 2 )
10	「書くこと」学習指導研究 ( 1 )
11	「書くこと」学習指導研究 ( 2 )
12	「読むこと」学習指導研究 ( 1 )
13	「読むこと」学習指導研究 ( 2 )
14	「伝統的な言語文化に関する事項」学習指導研究
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー等15%、指導案等の作成20%、発表等30%、筆記試験20%と

し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業のリアクションペーパー等を返却し、質疑に返答するなどして学習内容が深められるようにする。

#### 授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（国語）を読み、次時に学習する領域について理解する。

演習発表の際には、学習指導案・授業シナリオ・板書計画などを作成する。

【事後学修】当該授業を振り返り、学習内容について理解を深め、学習指導要領の該当項目について熟読するなどして自身に足りない知識を補う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省・東洋館出版社・148円）、「高等学校学習指導要領 国語編」（文部科学省・教育出版・313円）。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

科目名	国語科教育法		
担当教員名	寺西 裕子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

中学校・高等学校 (国語) 教員免許取得のための必修科目。「国語科教育法」の学習を受け、国語科教育に関する理解を深め、授業実践能力の育成を図る。

#### 科目の概要

国語科教育の動向や今日的課題、新しい学習指導法について学んだ後、学習指導案の作成や模擬授業を行い、授業担当能力を培う。

#### 学修目標

1. 「国語科教育法」で学んだ基礎的知識・技能をもとに、国語科教育の今日的課題や新しい学習指導法について理解を深める。
2. 学習指導案の作成や模擬授業の実践を通して、実際に授業を担当する力を身につける。

#### 内容

この授業は、講義をもとに、グループワークやディスカッション、模擬授業実践を取り入れながら、学びを深めていく。

1	国語科教育法 の概要を知る
2	国語科教育の動向と今日的課題について
3	「話すこと・聞くこと」の授業研究 ( 1 )
4	「話すこと・聞くこと」の授業研究 ( 2 )
5	「書くこと」の授業研究 ( 1 )
6	「書くこと」の授業研究 ( 2 )
7	「読むこと」の授業研究 ( 1 )
8	「読むこと」の授業研究 ( 2 )
9	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の授業研究
10	模擬授業演習 (1)
11	模擬授業演習 (2)
12	模擬授業演習 (3)
13	模擬授業演習 (4)
14	模擬授業演習 (5)
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー15%、学習指導案20%、模擬授業30%、筆記試験20%とし

、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションペーパー等を返却しながら、前回の授業内容について質問に答え、学習理解が深まるようにする。

#### 授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（国語）を読み、次時に扱う領域について理解を深めておく。

演習発表に際しては、学習指導案・授業シナリオ・板書計画などを作成しておく。

【事後学修】当該授業を振り返り、評価表等を記入するなどして学習内容について理解を深め、学習指導要領などを参考にして自身の足りない知識を補う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・東洋館出版社・148円）、『高等学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省・教育出版・313円）。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

科目名	国語科教育法		
担当教員名	寺西 裕子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

中学校 (国語) 教員免許取得のための必修科目。高等学校 (国語) 教員免許取得のための選択科目。

「国語科教育法 ・ 」と連携し、授業担当能力の向上を目指す。

#### 科目の概要

中学校・高等学校の国語科の授業実践に必要な知識と技能について、講義と模擬授業演習により、学んでいく。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

1. 国語科教育法 ・ の学習を踏まえ、国語科の授業づくりに必須の事項への理解を深める。
2. 中学校「国語」の伝統的な言語文化の授業を担当する上で必要な技能を修得する。
3. 高等学校「国語総合」の授業を担当する上で必要な技能を修得する。

#### 内容

この授業は講義をもとに、グループワークや実践によって学びを深めていく。

1	国語科教育法 の概要を知る
2	学習指導要領を読み、古典の学習について知る
3	中学校「国語」授業実践研究 ( 1 )
4	中学校「国語」授業実践研究 ( 2 )
5	中学校「国語」授業実践研究 ( 3 )
6	中学校「国語」授業実践研究 ( 4 )
7	高等学校「国語総合」授業実践研究 ( 1 )
8	高等学校「国語総合」授業実践研究 ( 2 )
9	高等学校「国語総合」授業実践研究 ( 3 )
10	模擬授業演習 (1)
11	模擬授業演習 (2)
12	模擬授業演習 (3)
13	模擬授業演習 (4)
14	模擬授業演習 (5)
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー等15%、学習指導案20%、演習発表30%、筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回のリアクションペーパー等を返却し、質疑に答えるなどして理解を深められるよう



にする。

#### 授業外学習

【事前準備】中学校および、高等学校学習指導要領（国語）を読み、次時に学習する領域について理解する。演習発表の際には、学習指導案・授業シナリオ・板書計画などを作成しておく。

【事後学修】当該授業を振り返り、学習内容について理解を深め、学習指導要領の該当箇所を熟読するなどして自身に足りない知識を補う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省・東洋館出版社・148円）、「高等学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省・教育出版・313円）。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

科目名	国語科教育法		
担当教員名	寺西 裕子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

中学校 (国語) 教員免許取得のための必修科目。高等学校 (国語) 教員免許取得のための選択科目。

「国語科教育法」の内容を発展させ、授業担当能力の一層の向上を図る。

#### 科目の概要

国語科教育の動向や新たな授業実践の方法について学んだ後、教科書教材をもとに、自己の創意工夫を加えて学習指導案を作成し、模擬授業を行う。実践後は多角的検討を加え、授業改善を図る。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. 国語科教育の動向や課題、新しい授業実践の方法等について理解を深める。
2. 国語科の授業づくりに必要な知識・技能を身につけ、自己の創意工夫を活かして授業を担当することができるようにする。

#### 内容

この授業は、講義をもとに、グループワークや模擬授業を取り入れながら、学びを深めていく。

1	国語科教育法 の概要を知る
2	学習指導要領の変遷と新学習指導要領について
3	国語科教育の動向および新たな授業実践例について
4	中学校「国語」授業実践研究 ( 1 )
5	中学校「国語」授業実践研究 ( 2 )
6	高等学校「現代文」授業実践研究 ( 1 )
7	高等学校「現代文」授業実践研究 ( 2 )
8	高等学校「古典」授業実践研究 ( 1 )
9	高等学校「古典」授業実践研究 ( 2 )
10	模擬授業演習 (1)
11	模擬授業演習 (2)
12	模擬授業演習 (3)
13	模擬授業演習 (4)
14	模擬授業演習 (5)
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度15%、毎回のリアクションペーパー等15%、学習指導案の作成20%、演習発表30%、筆記試験20

%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回のリアクションペーパー等を返却し、前回の授業内容についての質疑応答を行い、学習理解を深められるようにする。

#### 授業外学習

【事前準備】中学校及び高等学校学習指導要領（国語）を読み、次時に学習する領域について理解する。

演習発表の際には、学習指導案・授業シナリオ・板書計画などの作成が必要。

【事後学修】当該授業を振り返り、学習内容について理解を深め、自身に足りない知識を補う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「中学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省・東洋館出版社・148円）、「高等学校学習指導要領 国語編」（文部科学省・教育出版・313円）。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教職に関する科目 ( 教育課程及び指導法に関する科目 )

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

#### 科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

#### 学修目標

教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができることや、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができることを目標とする。また、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れる、児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につける。同時に、情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができることや、地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できることをねらいとする。

## 内容

講義による解説とグループ活動による課題解決を行う。

1	情報の意義や役割の理解 ( 1 )
2	情報の意義や役割の理解 ( 2 )
3	情報教育の全体像と目標
4	普通教科「情報」のねらいと教科 ( 1 )
5	普通教科「情報」のねらいと教科 ( 2 )
6	専門教科「情報」のねらいと教科 ( 1 )
7	専門教科「情報」のねらいと教科 ( 2 )
8	問題解決と演習の設計 ( 1 )
9	問題解決と演習の設計 ( 2 )
10	演習課題選択の観点
11	目標分析と年間指導計画の作成 ( 1 )
12	目標分析と年間指導計画の作成 ( 2 )
13	講義と実習の効果的な授業方法
14	グループワークの組織方法
15	まとめ

## 評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。形式は、課題（40%）、最終レポート（60%）を総合して、60%以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】教科書該当箇所に目を通しておくこと(60分)

【事後学修】課題を出すので、その実施をおこなうこと(60分)

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

科目名	情報科教育法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教職に関する科目 ( 教育課程及び指導法に関する科目 )

- ・教育課程の意義及び編成の方法
- ・各教科の指導法

#### 科目の概要

初等中等教育における情報教育全体の教育課程について理解し、教科「情報」教育の意義について学ぶ。普通教科「情報」と専門教科「情報」の教育課程を理解するとともに、それぞれのカリキュラムの実際について学ぶ。以上の事柄を通して、教員としての専門知識・技術を育成する。

#### 学修目標

教科「情報」の指導のための学習指導案の立案ができることや、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度についての指導ができることを目標とする。また、ICT機器等を活用して、知識の定着や技能の習熟を図れる、児童生徒が授業や学習活動に必要なICTスキルについて指導できる技術を身につける。同時に、情報社会の倫理や法、自他の権利について理解、自他の安全や健康に関する理解、情報セキュリティに関して重要性の理解ができることや、地域・保護者と連携をとり、児童生徒の情報安全教育を進める意義を理解できることをねらいとする。

## 内容

講義による解説とグループによる課題解決を行う。

1	科目の性格と目標 ( 1 )
2	科目の性格と目標 ( 2 )
3	科目の性格と目標 ( 3 )
4	学習指導案と教材作成 ( 1 )
5	学習指導案と教材作成 ( 2 )
6	学習指導案と教材作成 ( 3 )
7	学習指導案と教材作成 ( 4 )
8	模擬授業 ( 1 )
9	模擬授業 ( 2 )
10	模擬授業 ( 3 )
11	授業評価と学習評価の考え方 ( 1 )
12	授業評価と学習評価の考え方 ( 2 )
13	授業評価と学習評価の考え方 ( 3 )
14	これからの教科「情報」
15	まとめ

## 評価

教材研究や模擬授業課題の状況、専門知識の習得状況などについて評価を行う。形式は、課題（40%）、最終レポート（60%）を総合して、60%以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】教材研究をおこなうこと(60分)

【事後学修】事後の評価をおこなうこと(60分)

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

文部省、高等学校学習指導要領解説 情報編

久野靖他、情報科教育法、オーム社

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	徳野 裕子、沼澤 奈都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は、学位需要方針1．2．3に該当する。教職課程における栄養教諭二種免許取得するために必要な科目であり、栄養教諭実習 ・ および栄養実践演習を行うための最初の科目である。

#### 科目の概要

教職課程における栄養教諭に必要とする基本的な事項を学ぶ。 栄養教諭の役割および職務内容に関する事項、 幼児、児童及び生徒の栄養に関わる課題に関する事柄、 食生活に関する歴史及び文化的事柄、 食に関する指導の方法に関する事柄を修得する。

#### 学修目標（＝到達目標）

- ・ 子どもの食に関する課題を把握する。
- ・ 食生活に関する問題の解決に向けた基礎的な能力を育む。
- ・ 栄養に関わる教育力を身につける。

#### 内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼン、実習を取り入れながら、学びを深めていく。

1	栄養教諭の役割と職務内容について（徳野）
2	食に関する指導の基礎的知識 子どもの発育と発達（徳野）
3	食に関する指導の基礎的知識 身体計測、身体の働きとバランス（徳野）
4	食に関する指導の基礎的知識 子どもの味覚と調味、食とコミュニケーション（徳野）
5	子どもの健康・栄養に関する現状と課題（徳野）
6	学校給食（徳野）
7	食に関する指導の全体計画 「食に関する指導」（沼澤）
8	食に関する指導の全体計画 計画・実施・評価（沼澤）
9	教科などにおける食に関する指導「学習指導要領の理解と作成」（沼澤）
10	個別栄養相談指導について（沼澤）
11	学習指導案の作成 問題行動の特定と題材の設定（沼澤）
12	学習指導案の作成 学習指導案の作成と板書計画（沼澤）
13	学習指導案の作成 学習指導案の遂行に必要な資料媒体作成（沼澤）
14	栄養教育の模擬授業（沼澤）



## 評価

授業態度20%、小テスト20%、媒体などの製作品30%、模擬授業30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業ごとに振り返りを行い、ディスカッションを行い、学修理解を深められるようにする。

## 授業外学習

【事前準備】栄養教育に関する知識を教科書や本から調べ、自分なりに内容を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】栄養教育の基本について復習することを必須とし、教職実習のために復習ノートを作成しておく。（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著 「栄養教諭のための学校栄養教育論」医歯薬出版株式会社

文部科学省 小学校指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編

【参考図書】上田伸男編著 「学校栄養教育概論：学校における食の指導」（株）化学同人

笠原賀子編著 「栄養教育実習ノート」医歯薬出版株式会社

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、寺田 利枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 栄養教諭一種免許状を取得するための「栄養に係る教育に関する科目」として、3年次前期に履修する必修の科目である。管理栄養士国家試験受験資格取得のための学びの内容が、基礎知識として前提となる。小・中学校において児童・生徒へ食育を実施する栄養教諭（教職免許）とはどんな資格か、求められていることは何かを学び、栄養教諭実践論における実際の食育の方法の学びへと展開していく。

科目の概要 近年、児童・生徒の食生活の乱れが深刻化し、メタボリックシンドローム予備群の増加等、食と健康問題との関わりが懸念されている。栄養教諭が学校において食に関する指導を行い、児童・生徒が自ら望ましい食習慣を身につけるように育む食育は重要であり、そのために熟知しておくべき制度や背景など基礎的な内容を学習していく。さらに、「学校給食の管理」と一体化した「食に関する指導」を職務内容とする栄養教諭が、食育を推進する「チーム学校」において、どのような役割を担うべきかを理解していく。

学修目標 ( 1 ) 栄養教諭の役割および職務内容について理解する ( 2 ) 幼児、児童・生徒の栄養に係わる課題を理解する の2点とする。

内容

この授業は、講義を中心に毎時間、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを含んだアクティブラーニング形式で実施し、学びを深める。

1	栄養教諭とは～栄養教諭精度創設の経緯と背景～
2	児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義
3	児童・生徒の栄養指導及び管理の現状と課題
4	児童・生徒の発育・発達、学習能力の発達に応じた食に関する指導の在り方
5	栄養教諭の職務内容
6	栄養教諭の使命と役割、求められる資質
7	学校給食の意義
8	学校給食の役割
9	食生活の変遷
10	児童・生徒の栄養の栄養に係る諸課題（国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む）
11	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる社会状況
12	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる諸制度や法令
13	「チーム学校」で取り組む食育のPDCAサイクル
14	「チーム学校」の中核となる栄養教諭の使命と役割
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のワークシートや課題発表など40%、およびペーパーテスト50%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】各授業の最初に、前回授業のワークシートに対するコメントや質疑への返答をし、理解を深める。

#### 授業外学習

【事前予習】文部科学省〔食に関する指導の手引き-第一次改訂版-〕の該当する章を、事前に読んでおく（各授業に対して30分）。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索して、一つでも多くの事例を知っておく（各授業に対して60分）。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で伝える。

【推薦書】金田雅代編著〔3訂 栄養教諭論 第3版〕 建帛社

【参考資料】文部科学省〔食に関する指導の手引-第一次改訂版-〕〔新学習指導要領〕〔栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育〕〔食育教材 楽しい食事つながる食事〕

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、寺田 利枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 栄養教諭一種免許状を取得するための「栄養に係る教育に関する科目」として、3年次後期に履修する必修の科目である。3年次前期に「栄養教諭実践論」で学習した内容を基礎とし、前提となる管理栄養士養成のための学びを加えて、具体的に応用・展開して児童・生徒へ指導する方法等を学んでいく。栄養教育実習 ( 栄養教諭実習、栄養教諭実習 ) の前段階に相当する。

科目の概要 栄養教諭の職務内容は、「食に関する指導」と「学校給食管理」である。給食を生きた教材とする学校現場での食育活動の実際を学び、PDCAサイクルで「チーム学校」としての食育を運営していく必要性と方法を学ぶ。その後、自ら指導案と教材・資料等を作成して授業運営の模擬を行い、教育効果の評価などから学びを得る。

学修目標は、( 1 ) 食に関する指導方法の理解 ( 2 ) 食に関する指導のための指導案、教材・資料の作成法の理解 ( 3 ) 食に関する指導の模擬体験による授業運営法の理解 とする。

#### 内容

この授業は、毎時間講義を中心に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを含むアクティブラーニング型です。学びを深める。

1	食文化の特徴や変遷と関連する栄養問題
2	「チーム学校」で取り組む、食に関する指導の意義とPDCAサイクル
3	学校給食を核とした年間指導計画の立案
4	給食の時間における食に関する指導 ( 地場産品の活用を含む )
5	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導
6	体育科、保健体育科における食に関する指導
7	道徳、特別活動における食に関する指導
8	生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導
9	食生活学習教材・食に関する指導参考資料を活用した食に関する指導
10	食に関する指導の指導案作成
11	作成した指導案の発表，相互評価
12	模擬授業、指導効果の評価
13	学校と家庭と地域が連携した食に関する指導
14	食物アレルギー、肥満ややせに対する個別指導のあり方
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度10%、毎回のワークシートや課題発表など40%、およびペーパーテスト50%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】各授業の最初に、前回授業のワークシートに対するコメントや質疑への

返答をし、理解を深める。

#### 授業外学習

【事前予習】文部科学省〔食に関する指導の手引き-第一次改訂版-〕の該当する章を、事前に読んでおく（各授業に対して30分）。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索する。一つでも多くの指導案を知り、自分の指導案づくりに生かして取り組む（各授業に対して90分）。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で伝える。

【推薦書】金田雅代編著〔3訂 栄養教諭論 第3版〕 建帛社

【参考資料】文部科学省〔食に関する指導の手引-第一次改訂版-〕〔新学習指導要領〕〔栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育〕〔食育教材 楽しい食事つながる食事〕

科目名	教育実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年		ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

教職課程必修の教育実習事前事後指導

科目の概要

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標 ( = 到達目標 )

参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

## 内容

### 1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

### 2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

### 3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

## 評価

教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。形式は、レポート50点、実習日誌50点とし、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

- 【事前予習】教育実習配当校との事前準備
- 【事後学修】教育実習配当校との事後評価

## 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】特に指定しない。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目で、教育実習の事前・中間・事後指導を行う。

#### 科目の概要

国語科教育法 ~ および教科関連科目によって修得してきた知識・理論・方法論をふまえ、教育実習を効果的に行うために、事前・中間・事後指導を行う。

#### 学修目標(=到達目標)

参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指す者としての責任を自覚し、実際の授業実践能力を向上させることをねらいとする。

#### 内容

##### 1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

##### 2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

##### 3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

#### 評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、授業および模擬授業課題20点、教材研究20点、レポート30点、実習および実習日誌30点、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業の講評やレポートの添削を行う。

## 授業外学習

【事前準備】模擬授業の教材研究・指導案作成・教材研究などを行う。（各授業に対して60分）

【事後学修】模擬授業の指導を受け、指導案等の修正を行う。（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説 国語編

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する



科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	若葉 京良		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目である。教育実習の事前・中間・事後指導をおこなう。

科目の概要

保健体育科教育法 ~ 及び教科関連科目によって習得してきた知識・理論を踏まえ、教育実習を実り多きものにするための指導をおこなう。

学修目標( = 到達目標)

教員を目指す者としての責任を自覚し、授業実践能力の向上を図る。

内容

#### 1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成方法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

#### 2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

#### 3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

教材研究や指導案作成の状況、勤務や・サービスへの理解、授業運営能力について評価を行う。授業参加及び課題を20点、レポートを40点、実習及び実習日誌40点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポート内容について、学生同士で共有する機会を設ける。

授業外学習

【事前準備】担当する授業の教材研究・指導案作成(通算で180分以上)

【事後学修】指導を受けた指導案の修正（通算で180分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説 保健体育編

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

教育職員免許法による中学校教諭・高等学校教諭一種免許状取得に必要な「教職に関する教科」の1つである。

#### 科目の概要

教科教育法や教職関連科目等によって修得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえたうえで、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

#### 学修目標(=到達目標)

1. 教師としての姿勢・目的意識及び倫理観を明確にする。
2. 教科に対して指導し又は授業を行うに要する、基礎的な知識・技能の獲得を目指す。

### 内容

#### 1. 事前指導

##### (1) 教育実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

##### (2) 実習中における課題の設定について

##### (3) 実習校訪問について

#### 2. 事後指導

##### (1) 教育実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

##### (2) 実習校訪問

##### (3) 実習記録簿の提出

### 評価

提出物(3割)、報告会などの授業態度等(7割)を総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での予習が必要となる。(毎回1時間程度) 【事後

学修】教育実習に向けて各自が必要する項目の復習が必要となる。（毎回2時間以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に指示する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教科関連科目・国語科教育法 ～ ・教育実習 で修得してきた内容をふまえる。

教育職員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校教諭一種「国語科」の前期実習(必修)、高等学校教諭一種「国語科」(3週間以上の実習期間の者を対象とする)前期実習(選択)である。

#### 科目の概要

学校現場での実習勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

#### 学修目標(=到達目標)

これまでに修得してきた教科、教育方法等に関する知識・理論を活用して、教員を目指す者としての実践的指導力を身につける。

#### 内容

協力校における参観実習および教壇実習からなる教育実習(3週間)を行う。専門教科の教授法に加えて、ホームルーム運営や特別活動等を通じて、学級経営のあり方についても実践的に学ぶ。

#### 評価

実習校からの評価資料80点、および「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について振り返りを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】担当する授業の準備(各授業に対して60分)

【事後学修】実習日誌の整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備(各授業に対して60分)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

【推薦書】【参考図書】実習の様子を聞いたうえで適宜指導する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	若葉 京良		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教育職員免許法に定める教育実習のうち、中学校教諭一種「保健体育科」の前期実習(必修)、高等学校教諭一種「保健体育科」の前期実習(選択)である。

#### 科目の概要

学校現場での実務経験を通して、教職に関する自身の適性を見定める。

#### 学修目標(=到達目標)

これまでに習得してきた教科教育方法等に関する知識・理論を活用して、教員に必要とされる実践的な指導力を身につける。

#### 内容

協力校において教育実習を行う。

専門科目の教授法に加え、道徳・特別活動などの指導、学級経営についても実践的に学ぶ。

#### 評価

実習校からの評価資料80点、および「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載内容について振り返りを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】担当する授業の準備(通算180分以上)

【事後学修】実習日誌の整理及び授業後のプリント・小テスト、持ち越した質問に対する回答の準備(通算180分以上)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習校が採用している教科用図書に従うこと。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

教育職員免許法による中学校・高等学校教諭一種(保健)の免許取得に必要な「教職に関する科目」の1つである。

##### 科目の概要

中学校または高等学校にて、中学校・高等学校教諭一種(保健)の免許取得に向けた実習を規定に沿って実施する。

##### 学修目標(=到達目標)

- 1.教科関連科目・教科教育法, 教育実習 で修得したことをふまえて, 教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに学修した教科, 授業方法等に関する知識を実践的な知識に変換し, 教員を目指す者としての実践的能力をつける。
- 2.学校現場での実際の勤務経験をとおして自身の教員としての適正を見極める。

#### 内容

教育実習校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

#### 評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等を実習校による評価(10割)とし総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実習校での授業計画等、事前予習が必要である。(各1~2時間程度) 【事後学修】実習後の記録整理・授業の振り返りなど各自必要な項目の復習が必要である。(各2~3時間程度)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年		ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「情報科」(2週間の実習期間の者を対象とする)実習(必修)である。

#### 科目の概要

1. 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

#### 学修目標 (= 到達目標)

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

#### 内容

協力校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

#### 評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。



科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教科関連科目・国語科教育法 ～ ・教育実習 で修得してきた内容をふまえる。

教育職員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校教諭一種「国語科」の実習(必修)、高等学校教諭一種「国語科」(3週間以上の実習期間の者を対象とする)実習(必修)である。

#### 科目の概要

教科指導や生活指導など、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

#### 学修目標(=到達目標)

1. これまでの修得してきた教科、授業方法等に関する知識・理論を活用する。
2. 教員を目指す者としての実践的指導力を身につける。
3. 教育実習での学びを振り返り、知識や技能の定着を確認する。

#### 内容

協力校における2週間以上の教育実習を行う。

#### 評価

実習校からの評価資料80点および「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 【フィードバック】

教育実習日誌の記載事項について、振り返りを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

【推薦書】【参考図書】教育実習の様子を聞いたうえで適宜指導する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	若葉 京良		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教育職員免許法に定める教育実習のうち、中学校教諭一種「保健体育科」の前期実習(必修)、高等学校教諭一種「保健体育科」の前期実習(選択)である。

#### 科目の概要

学校現場での実務経験を通して、教職に関する自身の適性を見定める。

#### 学修目標(=到達目標)

これまでに習得してきた教科教育方法等に関する知識・理論を活用して、教員に必要とされる実践的な指導力を身につける。

#### 内容

協力校において教育実習を行う。

専門科目の教授法に加え、道徳・特別活動などの指導、学級経営についても実践的に学ぶ。

#### 評価

実習校からの評価資料80点、および「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について振り返りを行う。

#### 授業外学習

【事前準備】担当する授業の準備

【事後学修】実習日誌に整理、授業後のプリント・小テスト、持ち越した質問に対する回答の準備

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習校が採用している教科用図書に従うこと。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

教育職員免許法による中学校・高等学校教諭一種(保健)の免許取得に必要な「教職に関する科目」の1つである。

#### 科目の概要

教科関連科目, 教科教育法, 教育実習, で修得したことを踏まえて実際に授業を担当する。学校現場での実際の勤務経験をを通して、自身の教員としての適正を見極める。

#### 学修目標

これまでに学修した知識を実践的な知識に変換し, 教員を目指す者としての実践的指導力を身に付ける。

#### 内容

教育実習校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

#### 評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等を実習校による評価(10割)とし総合評価60点以上を合格とする。総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】担当する授業準備その他実習校の指示に従う。(各2~3時間)【事後学修】教育実習における自己の実践を振り返り、実習報告会に向け準備を行う。(各1時間程度)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	養護実習		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「教職に関する科目」の1つである。

#### 科目の概要

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法等を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレイングを取り入れた指導場面を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

1. 実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。
2. 児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。
3. 連携の方法や必要性を再確認させる。

## 内容

### 1. 事前指導

#### (1) 養護実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

#### (2) 実習中における研究課題の設定について

#### (3) 実習校訪問について

#### (4) ロールプレイングによる模擬演習

#### (5) 既習科目の復習

### 2. 事後指導

#### (1) 養護実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

#### (2) 実習校訪問

#### (3) 実習記録簿の提出

## 評価

提出されたレポート等については報告会の場でフィードバックする。提出物(3割)、報告会などの授業態度等(7割)を総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自で予習が必要となる。(毎回1時間程度)【事後学修】養護実習に向けて各自が必要とする項目について資料やノートを作成し復習をすることが必要となる。(毎回2時間以上)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書:「学校保健実務必携」(学校保健・安全実務研究会 編著 第一法規)

科目名	<b>養護実習</b>		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「教職に関する科目」の1つである。

##### 科目の概要

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

1. 実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。
2. 児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。
3. 児童生徒への指導の体験。
4. 事後措置の方法の体験。
5. 他の教員や保護者等との連携方法の体験。

#### 内容

1. 学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
2. 学校運営及び教職員の職務の理解
3. 教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
4. 養護教諭の役割と保健室経営について実務を通じた理解
5. 児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
6. 児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
7. 地域等の関係機関との連携について
8. 学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動
9. 集団による保健指導等の実際
10. 教育者としての倫理観の体得について

#### 評価

実習校から提出される勤務記録と実習評価資料及び実習記録簿に基づき評価する。実習校から提出される勤務記録と実習評価資料及び実習記録簿等を実習校による評価 ( 10割 ) とし、総合評価60点以上を合格とする。実習巡回、実習後の指導において適宜フィードバックする。

#### 授業外学習

【事前予習】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自で予習が必要となる。( 毎回2時間程度 ) 【事後学修】養護実習に向けて各自が必要とする項目の復習が必要である。( 毎回2時間以上 )

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：（学校保健・安全実務研究会編著 学校保健実務必携 第一法規）

「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	徳野 裕子、幸田 真紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

この科目は、栄養教諭二種免許状を取得するための必修科目であり、教職に関する科目の一つである。取得した単位を中学校教諭一種及び高等学校教諭一種取得のための単位として充当することが可能な科目の一つでもある。

### 科目の概要

小中学校において5日間の栄養教諭実習を行う。栄養教諭実習では、実習を通して栄養教育を総合的に認識でき、学校現場での実践的な指導を学ぶ。実習を通して、問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度や能力を身に付ける。教育者として自覚を持てるようにする。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

栄養教育について体験的・総合的な認識を得る。

大学で習得した教科や教職に関する知識や理論、技術を生かし、学校現場での児童・生徒の発達に即した実践的指導を行うことができる。

教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度や能力を養う。

教育者としての愛情と使命感を深め、教員としての能力や適性についての自覚できる。

## 内容

### 実習校での実習について

- (1) 校長・指導教諭等からの指導
- (2) 児童及び生徒への個別な相談、指導の実習
- (3) 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習
- (4) 食に関する指導の連携・調整の実習
- (5) 学校の教育活動の参観や参加
- (6) 保護者や地域との連携について

## 評価

教育実習期間中の出席状況 ( 25% )、実習ノートの内容 ( 25% )、実習学校からの評価 ( 50% ) などを参考とし、総合評価60点以上を合格とする。

### 【フィードバック】

実習ノートの内容および実習学校からの評価から、教育者として自覚ができる情報を提供する。

## 授業外学習

【事前準備】栄養教育実習 の実習前の授業について見直し、研究授業を含めて実習への準備をしっかりとる。



【事後学修】実際の実習を実習ノートをしっかり記入し、実習終了後実習内容についてまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習の手引き、文部科学省 小学校学習指導要領解説特別編、食に関する指導の手引

【推薦書】藤沢良知他 よくわかる栄養教諭 同文書院

【参考図書】実習に関連する授業で使用した教科書

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	井上 久美子、寺田 利枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 教育職員である栄養教諭実習一種免許状を取得するための「教職に関する科目」として、4年次に履修する必修の科目である。小学校あるいは中学校における栄養教育実習「栄養教諭実習」を実施するための、事前・事後指導を中心にすすめる。栄養教育実習「栄養教諭実習」は、教育実習施設の受け入れ時期によって4年次のいずれかの時期になるため、本科目も連動しての開講となる(4年次通年科目)。

科目の概要 栄養教育実習の始まる前に、教育実習の意義や内容を理解し、教育職員としての栄養教諭の職務内容を明確化する。知識や技術を再確認して、意欲的に教育実習に取り組むことができる自信を導いく。また、教育実習後には実習での学びを整理し、問題点や今後の課題を抽出し、報告をまとめる。最後に、今後の栄養教諭の職務活動の展開を考えていく。

学修目標 (1) 教育職員としての自覚を持つ (2) 対象となる児童・生徒に必要とされる適切な指導案の作成や、媒体・教材を作成できる (3) 実施した栄養教育実習に関して発表・討議を行い、よりよい「食に関する指導」の提案や立案につなげることができる の3点である。

#### 内容

この授業は、小・中学校での教育実習への取り組みのための事前・事後指導科目であるため、自ら設定した課題解決型の学修を行って学びを深める。

1	栄養教育実習 事前指導	栄養教育実習の意義・目的
2	栄養教育実習 事前指導	学校の現状と課題、求められる資質や能力
3	栄養教育実習 事前指導	学習指導の工夫、実践的指導力
4	栄養教育実習 事前指導	授業研究、教科別指導のとらえ方
5	栄養教育実習 事前指導	意欲、目標の明確化と心構え
6	栄養教育実習 事前指導	実習日誌の記録法や指導案の立案ポイントの理解
7	栄養教育実習 事前指導	教育実習校の実習計画の把握
8	栄養教育実習 事前指導	指導案・媒体の作成
9	栄養教育実習 事前指導	模擬 ・ 討議
10	栄養教育実習 事前指導	指導案・媒体の作成
11	栄養教育実習 事前指導	模擬 ・ 討議
12	栄養教育実習 事後指導	気づきのまとめ
13	栄養教育実習 事後指導	教育実習報告会準備
14	栄養教育実習 事後指導	教育実習報告会

## 評価

事前・事後指導への参加態度30%、指導案作成への取り組み40%、提出課題レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】教育職員としての視点を持つことを常に意識し、教育実習以前の指導案や媒体の作成、以後の改善した報告のまとめなどに充分に取り組む（各授業に対して60分）

【事後学修】栄養教諭として求められることを理解し、提供すべき正しく新しい情報を自ら収集して教育実習に備える。また、他者の実習報告から多くの学びを得る（各授業に対して30分）。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考書】授業内で伝える。

【参考資料】文部科学省〔新学習指導要領〕〔食に関する指導の手引-第一次-改訂版〕〔栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育〕〔食育教材 楽しい食事つながる食事〕

【推薦書】笠原賀子、岩間範子、香川明夫、松下広美著〔栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート〕医歯薬出版

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	徳野 裕子、幸田 真紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

この科目は、栄養教諭二種免許状を取得するための必修科目であり、教職に関する科目の一つである。また、栄養教諭実習と必ず同時に取得する必要がある。なお、取得した単位を中学校教諭一種及び高等学校教諭一種取得のための単位として充当することが可能な科目の一つでもある。

##### 科目の概要

この授業は、栄養教諭実習 の栄養教諭実習を行うために必要な事前・事後指導を行う。

事前実習では、栄養教諭実習が円滑に行えるよう、栄養教諭実習に必要な知識を獲得し、準備する。

実習後は、実習にて習得した知識や技能をさらに深め、実習報告会を通して、自身の実践を総括ができる力を身につける。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

栄養教諭実習についての包括的な知識を獲得する。

栄養教諭実習に必要なスキルを習得する。

実習を総括できる力をつける。

#### 内容

事前実習 1回～10回、事後実習 11回～15回の授業となる。

1	オリエンテーション
2	栄養教諭実習の意義
3	栄養教諭実習の目的
4	栄養教諭実習の心構え
5	栄養教諭実習の実際
6	栄養教諭実習の実際
7	実習指導案の作成・検討
8	実習指導案の作成・検討
9	実習指導案の作成・検討
10	実習指導案の作成・検討
11	実習の反省
12	実習の反省
13	実習報告会
14	実習報告会
15	まとめ

#### 評価

授業への出席を含む平常点(50%)、提出物・レポート・報告内容等(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

**【フィードバック】**

事前準備のためのアドバイス、事後の報告会の評価結果を伝える。

**授業外学習**

**【事前準備】** 栄養教諭実習に必要な内容について予め予習を行う。

**【事後学修】** 栄養教諭実習に必要で気がついた事柄を深くまとめる。

**教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)**

**【教科書】** 笠原賀子編著 [栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂] 医歯薬出版, 文部科学省 [小学校学習指導要領・中学校学習指導要領]、小学校学習指導要領解説特別編、食に関する指導の手引

**【推薦書】** 川戸喜美枝編著 [栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - ] (株)ぎょうせい, 文部科学省 食に関する指導の手引き 第一次改定版 東山書房, 藤沢良知他 よくわかる栄養教諭 同文書院

**【参考図書】** 全国学校給食協会(編集) 食育クイズ&ワークシート集, 藤本勇二 入門・食育実践集 全国学校給食協会,

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	井上 久美子、寺田 利枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 本科目は、教育職員である栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、「栄養教諭実習」での事前指導が前提となる。実施時期（4年次のいずれかの時期）ならびに実習内容は実習施設校によって異なるが、いずれにおいても、教育現場である小学校や中学校での実際を観察、体験することで、教育職員としての知識や技術を確実に身につける。

科目の概要 実習施設校である小学校や中学校での1週間の教育実習を行う。学校現場での職務について理解を深め、学校給食やその他の特別活動、各教科における担任や各教科担当者の教育活動、栄養教諭の教育活動を体験する中で、食の指導のあり方を学ぶ。

学修目標 (1) 教員に関する理解を深め、その責任を理解する (2) 成長過程にある児童・生徒の特徴を把握し、誠意をもって接する姿勢を持つ (3) 大学で学んだ理論的、技術的な学習成果を実践して体得する (4) 実践に伴う反省を欠かさず、次の実践に活かすための自己研鑽を積む必要性を理解する の4点とする。

内容

この授業は、実際の小・中学校における教育実習であり、実践から学びを深める。

1	オリエンテーション (指導教諭から学校経営、校務分掌、サービスなどの説明)
2	学校給食・栄養教育の現状把握
3	「食に関する指導」の全体計画の理解
4	個別的な相談、指導の実習～相談・指導の場の観察実習・参加実習
5	担任による学級活動 (給食の時間) における指導の観察実習・参加実習
6	～給食放送指導・配膳指導・後片付け指導など～
7	生徒集会、委員会活動、クラブ活動、学校行事における指導の観察実習・参加実習
8	担任と栄養教諭による給食の時間での指導の観察実習・参加実習
9	担任と栄養教諭によるその他の特別活動における栄養教育の観察実習・参加実習
10	教科担当者と栄養教諭による各教科における指導の観察実習・参加実習
11	特別活動や各教科における授業実習の指導案作成・実施・評価
12	食に関する指導の連携・調整の実習～校内における連携・調整の役割～
13	食に関する指導の連携・調整の実習～家庭・地域との連携・調整の役割～
14	研究授業の指導案作成・実施・評価
15	研究授業ならびに教育実習の反省とまとめ

評価

実習終了後に施設校長から得る評価（実習校の教育実習評価票の結果）を60%、教育実習ノートの記録を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】栄養教諭実習での事前指導の内容を復習し、確認しておく（1週間教育実習中、毎日30分）。

【事後学修】教育実習ノートを整理し、観察実習、参加実習、授業実習、そして研究授業での学びをそれぞれまとめる（1週間教育実習中、毎日60分）。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】笠原賀子 岩間範子 香川明夫 松下広美〔栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート〕医歯薬出版

【参考資料】文部科学省〔新学習指導要領〕〔食に関する指導の手引-第一次改訂版-〕〔栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育〕〔食育教材 楽しい食事つながる食事〕

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	星野 祐子、日出間 均、松岡 敬明、鈴木 雅子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）／高等学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（保健）／中学校教諭一種免許状（国語）／高等学校教諭一種免許状（国語）／中学校教諭一種免許状（保健体育）／高等学校教諭一種免許状（保健体育）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教員免許状を取得するうえでの必修科目である。

教員として求められる資質能力の修得を確認すると共に、「履修カルテ」を参照し、各自の学修課題に即して、指導教員の助言を得ながら学修する。

科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。

グループ討論、事例研究、模擬授業、指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- (1) 使命感や責任感，教育的愛情に関する事項
- (2) 社会性や対人間関係能力に関する事項
- (3) 生徒理解や学級経営に関する事項
- (4) 教科内容等の指導力に関する事項

学修目標（＝到達目標）

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容

グループワークやディスカッションを取り入れながら、教育現場に通用する実践力を養う。

1	オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）
2	教職の意義・教員の役割、職務内容について理解を深める。
3	児童・生徒の成長、生徒指導について理解を深める。
4	学校の組織的な運営について理解を深める。
5	いじめ・不登校等の今日的な教育課題について理解を深める。
6	学級担任の役割や実務についての理解を深める。
7	保護者や地域との連携協力について理解を深める。
8	教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。
9	教科指導：実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。
10	教科指導：指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。
11	教科指導：全体での模擬授業に向けて、再度検討を重ねる。
12	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
13	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
14	教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
15	模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。



## 評価

【評価】授業への参加度（20％） レポート課題（30％）プレゼンテーション（30％）討議におけるパフォーマンス（20％）を総合的に評価し、相互評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートには、コメントを付して返却する。

## 授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備（各授業に対して60分）

【事後学修】振り返りのためのレポート作成（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

科目名	<b>教職実践演習（養護教諭）</b>		
担当教員名	綿井 雅康、鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性質

教職課程（養護教諭）の教職に関する科目での必修科目であり、養護実習を終えたことを前提として履修し学習する科目である。

##### 科目の概要

教員として、使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、社会性や対人間関係能力に関する事項、生徒理解や学校・学級経営に関する事項、養護教諭としての指導力に関する事項で構成する。また、教職・養護に関する科目を担当する教員が連携して、学生の補完すべき課題の様相や養護教諭としての実践力向上への取り組みについて共通理解と情報共有を図りつつ、指導を行う。

##### 学修目標

教職課程での学びの集大成として、受講生の履修履歴に基づき、教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、養護教諭としての実践力向上に必要な演習を行う。

#### 内容

第1回：オリエンテーション，これまでの教職課程を振り返る（講義，全体討議）

第2回：教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する

（教職勤務経験者による講義）

第3回：教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）

第4回：教育に関する問題点をふまえ自らの課題を発見する（現地調査）

第5回：自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）

第6回：児童生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習、事例研究）

第7回：生徒指導に関わる生活環境・社会状況に関する現代的課題の理解

（グループ調査演習、事例研究）

第8回：児童生徒の現代的な健康課題の理解とその解決への取り組みの検討

（グループ調査演習、事例研究）

第9回：保健室経営計画に関する講義と演習（講義と演習、全体・グループ）

第10回：現代的な健康課題を踏まえた保健室経営計画案の検討（演習・討議、ロールプレイ）

第11回：教育実習の振り返りと養護教諭としての指導力・実践力を考える（講義，グループ討議）

第12回：教育内容の基本的事項の確認（個人演習）

第13回：模擬授業、模擬場面指導

第14回：模擬授業、模擬場面指導

第15回：成果の発表（発表、全体）

この授業は、プレゼンテーションとディスカッションを基本に進めながら、教員としての実践力を向上させていく。

## 評価

演習での学習活動（70点）及び提出物（30点）により評価を行う。評価の基準は、各自が設定した課題に対する取り組み状況とその成果が、現場の実情に即して資質の向上につながっているという点である。演習でのプレゼンテーションやディスカッションについては、授業内でフィードバックを行う。

## 授業外学習

【事前予習】プレゼンテーションの準備を進めるとともに、各授業で扱う基本テーマについてこれまでの経験を振り返ってノートにまとめること（授業ごとに60分）

【事後学修】学修した内容を、学校現場でどのように実践するのかを考えてノートにまとめる（授業ごとに60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	徳野 裕子、日出間 均、松岡 敬明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭二種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

教員免許状取得上の必修科目である。栄養教諭として求められる資質能力の修得の確認をねらいとし、「履修カルテ」を参照し、各自自己の学修課題に即して指導教員の助言を得ながら学修する。

##### 科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。グループ討論，事例研究，模擬授業，指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- (1)使命感や責任感，教育的愛情に関する事項
- (2)社会性や対人間関係能力に関する事項
- (3)生徒理解や学級経営に関する事項
- (4)教科内容等の指導力に関する事項

##### 学修目標（＝到達目標）

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける

#### 内容

- 第1回 オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）
- 第2回 教職の意義・教員の役割、職務内容について理解を深める。
- 第3回 児童・生徒の成長、生徒指導について理解を深める。
- 第4回 学校の組織的な運営について理解を深める。
- 第5回 いじめ・不登校等の今日的な教育課題について理科を深める。
- 第7回 学級担任の役割や実務についての理解を深める。
- 第8回 保護者や地域との連携協力について理解を深める。
- 第9回 教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。
- 第10回 教科指導 : 実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。
- 第11回 教科指導 : 指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。
- 第12回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
- 第13回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
- 第14回 教科指導 : 修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
- 第15回 模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。

#### 評価

評価 レポート課題，プレゼンテーション，討議におけるパフォーマンスを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートには、コメントを付して返却する。

## 授業外学習

【事前予習】栄養教諭実習で学んだことから討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】栄養教諭実習で学んだ事を振り返りのためのレポート作成

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	名倉 秀子、日出間 均、松岡 敬明、井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（K）-教職課程（K）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

教員免許状取得上の必修科目である。栄養教諭として求められる資質能力の修得の確認をねらいとし、「履修カルテ」を参照し、各自自己の学修課題に即して指導教員の助言を得ながら学修する。

#### 科目の概要

授業は、以下の事項で構成する。グループ討論，事例研究，模擬授業，指導案の作成等を組み合わせて授業を行う。

- (1)使命感や責任感，教育的愛情に関する事項
- (2)社会性や対人間関係能力に関する事項
- (3)生徒理解や学級経営に関する事項
- (4)教科内容等の指導力に関する事項

#### 学修目標（＝到達目標）

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

### 内容

- 第1回 オリエンテーション（本授業のねらいと「履修カルテ」の確認）
- 第2回 教職の意義・教員の役割、職務内容について理解を深める。
- 第3回 児童・生徒の成長、生徒指導について理解を深める。
- 第4回 学校の組織的な運営について理解を深める。
- 第5回 いじめ・不登校等の今日的な教育課題について理科を深める。
- 第7回 学級担任の役割や実務についての理解を深める。
- 第8回 保護者や地域との連携協力について理解を深める。
- 第9回 教育実習を振り返り、教科と指導力を考える。
- 第10回 教科指導：実習中に受けた指摘や気づいた課題についての意見交換をする。
- 第11回 教科指導：指導案の修正案または改訂案についてグループ討議をする。
- 第12回 教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
- 第13回 教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
- 第14回 教科指導：修正または改訂した指導案の提案と模擬授業及び事後検討
- 第15回 模擬授業全体について事後検討を行い、学習指導の基本的事項を確認する。

### 評価

評価 レポート課題，プレゼンテーション，討議におけるパフォーマンスを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートには、コメントを付して返却する。

## 授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】振り返りのためのレポート作成

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

科目名	特別な教育的ニーズの理解と支援 B		
担当教員名	齋藤 忍、中西 郁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本科目は、「教員免許状取得のための必修科目」の1つ「教育の基礎的理解に関する科目」に該当し、通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする生徒に対し、学習上または生活上の困難を理解し、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に対応するために必要な知識や支援方法を理解することが求められる。

#### 科目の概要

インクルーシブ教育システムの意義理解の上に、発達障害やその他様々な多様性のある生徒への支援について基礎的な知識を学ぶとともに、校内支援体制や関係機関との連携について概要を学ぶ。また、特別支援学校の概要について学び、連続性のある学びの場やセンター的機能の活用について学ぶ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. LD・ADHD・ASD等の発達障害や、その他の教育的ニーズをもつ生徒について理解する。
2. 支援に当たっての校内支援体制の構築や関係機関との連携について理解する。
3. 特別支援学校の概要を理解し、交流及び共同学習の推進やセンター的機能の活用について理解する。

#### 内容

講義のみならず、発達障害等の心理的疑似体験等の演習やグループディスカッションなどを行い、学生同士が対話的・主体的な学びを通して、特別な教育的ニーズについて学びを深めていけるよう授業を展開する。

1	今、学校では ~インクルーシブ教育システムと合理的配慮~ (齋藤)
2	学習障害の理解と支援 (齋藤)
3	注意欠陥多動性障害の理解と支援 (齋藤)
4	自閉症の理解と支援 (齋藤)
5	情緒障害の理解と支援 (齋藤)
6	軽度知的障害の理解と支援 (齋藤)
7	言語の違い、貧困、LGBT等の理解と支援 (齋藤)
8	小・中学校における校内支援体制と連携システム (齋藤)
9	特別支援学級・通級による指導と自立活動 (齋藤)
10	保健・福祉・医療機関等との連携 (齋藤)
11	個別の教育支援計画・個別の指導計画 (齋藤)
12	特別支援学校教育の実際 ~特別支援学校に学ぶ子どもたちの理解と支援~ (中西)
13	特別支援学校教育の実際 ~特別支援学校との連携とセンター的機能~ (中西)
14	アセスメントの基礎 (齋藤)
15	自己理解と自己支援力の育成、まとめ (齋藤)



## 評価

授業への参加態度と毎回の小レポート50%、レポート試験50%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に小レポートへのコメントや返答をし、学習理解を深められるようにする。レポート試験についてはコメントを付し、授業の中で返却する。

## 授業外学習

【事前準備】事前に配付資料・教科書・推薦書等によって、各障害の定義・特徴・支援方法を調べ、疑問点を整理しておく。（各授業に対し30分）

【事後学修】授業内容については復習を必須とし、配付資料等をもとに理解が深められるようにするとともに、ボランティア等において学修内容を役立てる。（各授業60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で使用する資料のパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントアウトするかデータを閲覧できるノートパソコンを持参すること。

【教科書】「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）」「同解説総則編」文部科学省

【推薦書】「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」「同解説総則編」文部科学省

「特別支援学校学習指導要領（平成29年4月告示）」「同解説・自立活動編」文部科学省

「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引き-解説とQ&A-」文部科学省

科目名	衛生学		
担当教員名	佐藤 一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

養護教員を目指すために必要な知識となる感染症およびその病原体について講義する。

感染症を防ぎ、健やかな日々を送るためには知識や経験に基づく適切な予防が重要である。特に、養護教員を目指す学生は、感染症およびその病原体について幅広い知識を必要とする。そのため、感染症予防のため発生要因、病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症について講義する。

日常生活で罹りうる感染症を意識できるようになる、感染症に対する予防などを行うための基礎的な知識を身につける、感染症を起こす病原体の性質について理解を深める、ことを目標とする。

#### 内容

この科目は教科書の内容を基本に、座学による講義を中心にディスカッションを取り入れながら、感染症および微生物について学びを深めていく。

1	感染症に関する基本的理解
2	感染症成立のための三要因
3	免疫
4	細菌の形態、培養、分類などに関する概論
5	細菌の変異、遺伝的特徴
6	ウイルス
7	真菌
8	原虫
9	寄生虫
10	感染症の診断・治療・予防・防御
11	感染症各論1 細菌感染症
12	感染症各論2 ウイルス感染症
13	感染症各論3 その他の感染症
14	感染症の疫学
15	まとめ 講義内容の振り返りと総括

#### 評価

評価：毎回実施する豆テスト30%、期末試験70%とし、総合評価60%以上を合格とする。

フィードバック：提出された豆テストには、適宜コメントを記載し翌週以降の講義内で返却する。

講義内容よりも新しい知見を原記載となる論文等の資料とともに提示した場合、1件につき先着1名をS評価とする。

#### 授業外学習

事前学習：事前に当該単元や関連書籍を通読しておくことが望ましい (各回に対して60分)。

事後学修：何を理解し、何が理解できなかったのか整理し、次回講義時に質問できるようにまとめる (各回に対して60分)

)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】本田武司（編）はじめの一步のイラスト感染症・微生物学。羊土社。ISBN978-4-7581-2023-4。

【参考書】日本学校保健会（編）学校において予防すべき感染症の解説。丸善出版。ISBN978-4-903076-11-9。

阿部章夫（著）もっとよくわかる！感染症 病原因子と発症のメカニズム。羊土社。ISBN978-4-7581-2202-3。

池内昌彦 他「エッセンシャルキャンベル生物学」丸善。ISBN: 978-4621300992。など。

科目名	学校保健		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の特徴

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。

#### 科目の概要

学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みの基礎的事項(特に保健管理)について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。
2. 学校保健における基礎的事項について理解する。
3. 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

#### 内容

この授業はグループワーク・ケーススタディを取り入れながら学校保健領域の更なる学びを深めていく。

1	学校保健の意義と関連法規について
2	学校における疾病管理の実際について
3	慢性疾患のある児童生徒の疾病管理について
4	学校において予防すべき感染症について
5	学校における感染症の対応について
6	学校環境衛生の目的について
7	学校環境衛生の基準について
8	学校環境衛生の実施について
9	心身の健康課題への対応について
10	保健室経営と保健室経営計画について
11	学校における保健組織活動について
12	学校安全計画と安全管理について
13	学校管理下の事故・災害について
14	学校給食について
15	まとめ

#### 評価

筆記試験(講義中実施する5回の小テスト)9割、レポート・授業参加度1割により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポート・試験はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

#### 授業外学習

【事前予習】次回の内容について課題を出す（1時間程度）

【事後学修】授業については復習することを必須とし、教員採用試験に向けて復習ノートを作成しておく。（各授業に対して1時間程度）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】養護教諭のための学校保健＜第15版＞ 出井美智子他 少年写真新聞社

【推薦書】授業中に適宜示す

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	松葉 剛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

養護教諭免許取得のための必須科目として「解剖生理学」を広く標準的に学習した後に本科目を履修し、養護教諭が必要とする専門知識としての病態生理学について理解する。

#### 科目の概要

学校の健康診断に関わる疾患、学校感染症、アレルギー性疾患や、小児科領域の疾患のうち主に学童・思春期に罹患する疾患の病態について学ぶ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

学校健診に関わる疾患の検査法と病態について理解する。

学校感染症の種類と症状、病態および法令について理解する。

小児科領域の疾患のうち主に学童・思春期に罹患する疾患の病態について理解する。

#### 内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	学校定期健診の検査・診察方法と疾患 1 (身長・体重、栄養状態、体格)
2	学校定期健診の検査・診察方法と疾患 2 (視力、色覚、眼、聴力、耳鼻咽喉科、皮膚、歯)
3	学校定期健診の検査・診察方法と疾患 3 (結核、心臓、尿、寄生虫卵、その他)
4	学校感染症とその他の感染症
5	学童・思春期に罹患する疾患 1 免疫、アレルギー、膠原病
6	学童・思春期に罹患する疾患 2 循環器疾患
7	学童・思春期に罹患する疾患 3 腎・尿路系疾患
8	学童・思春期に罹患する疾患 4 消化器疾患
9	学童・思春期に罹患する疾患 5 血液・腫瘍疾患
10	学童・思春期に罹患する疾患 6 神経・筋・精神疾患
11	その他の小児の疾患 1 新生児疾患
12	その他の小児の疾患 2 遺伝性疾患・染色体異常
13	その他の小児の疾患 3 代謝・内分泌疾患
14	その他の小児の疾患 4 救急疾患
15	まとめ

#### 評価

最終講義の際に筆記試験（80点満点）を実施し、講義への参加状況の評価（20点満点）を加え、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業についてまとめ、質疑応答を行い、学習理解を深められるようにする。

#### 授業外学習

【事前準備】解剖生理学でまなんだ各臓器の形態や機能について確認しておくこと(45分)。

【事後学修】講義でとりあげた各疾患について、病態生理を理解すること(45分)。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ナーシング・グラフィカ 小児看護学 小児の疾患と看護 中村友彦・編 MCメディカ出版

【推薦書】看護のための最新医学講座 第14巻 新生児・小児科疾患 監修 日野原重明 中山書店

【参考図書】養護教諭講座 / 10 解剖学 生理学 監修 杉森守那 著 杉浦正輝 東山書房

科目名	救急処置活動		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。

#### 科目の概要

養護教諭として適切な救急処置活動をするための知識と技術を学ぶ。基本的事項を学習したのち、児童生徒に多くみられる、内科的・外科的な疾患に対する救急処置の方法を学習する。心肺蘇生法や止血法・包帯法などの演習を行う。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. 学校における救急処置の手順を理解する。
2. 各症状における救急処置の判断と処置の方法を理解する。
3. 救急処置の基本的技術を習得する。

#### 内容

この講義は養護教諭に必要な救急処置の実技を中心に進めるため、受講生の積極的な姿勢を求めます。

1	学校で行う救急処置の基本的な考え方について
2	救急処置の基本的な手順について 1
3	救急処置の基本的な手順について 2
4	学校で行う内科的症候に対する救急処置について (発熱・頭痛・腹痛など)
5	学校で行う内科的症候に対する救急処置について (けいれん・熱中症など)
6	学校で行う外科的症候に対する救急処置について (骨折・捻挫・打撲など)
7	学校で行う外科的症候に対する救急処置について (頭部外傷・熱傷など)
8	学校で行う外科的症候に対する救急処置について (眼科・耳鼻科・歯科など)
9	保健指導と救急処置後の事務手続きについて)
10	保健室使用する器具の使い方 軽微なけがへの対応方法 演習
11	体位・R I C E 処置・止血法等 演習
12	三角巾法 演習
13	包帯法・固定法等 演習
14	総合演習 事例を用いた演習
15	まとめ

#### 評価

試験 (筆記5割と実技5割で評価) を実施し60点以上を合格とする。60点に満たない者は再試を実施する。提出されたレポート、小テストの結果はコメントを記載し翌週以降に返却し解説する。

#### 授業外学習



【事前予習】救急処置に必要な解剖生理学等、事前に予習をしておくことが必要。(毎授業1時間以上)【事後学修】学修した技術を確実なものにするために実技等の復習が必要。(毎授業2時間以上)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト：授業中に適宜示す

科目名	養護概説		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校保健、の学習を基礎として、養護教諭が行っている職務内容を理解し、養護教諭として諸活動を実践する能力を養うことを目指す。

#### 科目の概要

前半は養護の歴史・理念・原理を理解したうえで、自分なりの養護観を持つ。後半は養護活動のための基礎的知識を身につける

#### 学修目標は

学校保健における養護教諭の職務を理解し自分の養護観を持つ。 養護教諭の活動に必要な実践力を身につける。

#### 内容

前半はグループワークを中心に進める。

後半は講義と演習を組み合わせで進める。

1	養護教諭の歴史と職務内容の変遷について
2	養護教諭の職務について1
3	養護教諭の職務について2
4	養護の原理と概念について
5	学校における救急処置
6	健康診断の法的根拠と実施計画
7	健康診断の実施項目と留意点
8	健康診断の実際と工夫
9	健康観察の方法
10	感染症の予防と保健管理
11	アレルギー疾患における保健管理
12	慢性疾病の保健管理
13	学校環境衛生検査項目と実施方法
14	学校環境衛生検査項目と実施方法
15	学校環境衛生に関する活動における養護教諭の役割

#### 評価

筆記試験(小テストを含む)9割、通常の授業の提出物及び授業の参加態度を1割として評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。テストの結果は次の授業で返却し解説をする。提出物はコメントをつけて翌週の授業で返却するとともに、全体で共有する。

#### 授業外学習

【事前予習】毎回予習のための課題を出す。1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】学習した内容をまとめるために1時間程度の復習が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：新養護概説<第9版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

人間発達心理学科の学位授与方針3に該当する。

養護教諭の職務とされている保健管理を効果的に容易に実践できる資質を担保するために、これまで学んだ知識を基盤にしながら、必要となる実際の事項について作成する、あるいは計画すること等について具体的に体験して学ぶものである。

#### 科目の概要

学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法および技術的基準、事後処理等に関する具体的な方法、さらには保健管理をする上で必要となる計画等の作成方法について演習による体験学習をするものである。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

養護教諭の職務内容に基づいて、その具体的な方法や作成方法について学び、それぞれの方法等の留意点や活用方法を習得するものである。

#### 内容

この授業は養護実習に向けて健康診断の実施計画や保健だよりの作成など養護教諭の職務内容を実践的に学んでいく。

1	オリエンテーション 「保健だより」作成の留意点と作成の実際
2	「保健だより」作成の実際
3	「保健だより」作品発表 自己評価・他者評価
4	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (1)
5	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (2)
6	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (3)
7	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (4)
8	定期健康診断に必要な統計処理の方法
9	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (5) 事前指導・事後保健指導 (発表 )
10	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (6) 事前指導・事後保健指導 (発表 )
11	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際 (7) 発表振り返り
12	定期健康診断事後処理の実際 (1) 健康診断結果通知の作成
13	定期健康診断事後処理の実際 (2) 管理が必要な児童生徒への保健指導
14	定期健康診断事後処理の実際 (3) 管理が必要な児童生徒への保健指導
15	定期健康診断事後処理の実際 (4) 健康診断票の記録・保管・測定値の統計処理・まとめ

## 評価

レポートおよび資料作成の提出と内容90%、演習への取組み態度10%とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】提出されたレポート等はコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

## 授業外学習

【事前準備】養護実習に向けて各授業についてその概要を事前に確認しておくこと。（各授業に対して1時間は必要）

【事後学修】各授業で実践した内容を養護実習に向けて整理すること。（各授業に対して1時間は必要）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

「児童生徒等の健康診断マニュアル」平成27年度版 日本学校保健会

「養護概説」 采女智津江他 少年写真新聞社

「学校保健の課題とその対応」 公益法人日本学校保健会

「学校保健実務必携」 学校保健・安全実務研究会 第一法規株式会社

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「学校保健」「養護概説」を中心に、これまで学んできた知識を基礎に据え、養護教諭としての活動を実践するための能力を養うことを目指す。

#### 科目の概要

養護活動のための基礎的な知識を身につける。具体的には保健指導、保健室経営、組織活動を取り上げる。

#### 学修目標

保健指導、保健室経営、組織活動において、養護教諭として必要な実践力を身につける。

#### 内容

講義とグループワークによる演習を組み合わせる。

1	保健教育の領域とそれぞれの特質について
2	保健教育における養護教諭の役割について
3	特別活動における保健指導の実際について
4	個別の保健指導の実施について
5	学校医、学校歯科医、学校薬剤師の職務内容について
6	学校における保健組織活動について ( 校内組織 )
7	学校における保健組織活動について ( 校外組織 )
8	学校安全と危機管理について
9	災害時における子どもの健康課題について
10	災害時における心のケアの実際について
11	災害時における心のケアの実際について 2
12	保健室経営と保健室経営計画について
13	保健室経営計画の立案について
14	保健室経営計画 留意点と工夫点について
15	保健室経営計画の評価について

#### 評価

筆記テスト ( 小テストを含む ) を 9 割と授業の提出物の内容を 1 割として評価し、60 点以上を合格とする。テストの結果は次の授業で返却し、解説をする。提出物はコメントをつけて翌週の授業で返却をするとともに全体で共有する。

#### 授業外学習

【事前予習】毎授業時に次回の予習のための課題を出す。1 時間程度の予習が必要である。

【事後学修】授業で学習した内容をまとめるために 1 時間程度の復習が必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：新養護概説<第9版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社 、児童生徒等の健康診断マニュアル 日本学校保健会

推薦書：学校保健実務必携 第3次改訂版 第一法規

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている。「学校保健」「養護概説」「看護学」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指す。

#### 科目の概要

前半は健康診断を取り上げ、基礎的知識の確認をしたのちに、健康診断の教育的意義に注目して演習を行う。後半は現代的な健康課題を取り上げ、学校・養護教諭としての対応について考える。

#### 学修目標

これまでに学んだ知識と技術を活かしながら、養護教諭としての的確な判断力と対応力を身に付ける。

#### 内容

1	児童生徒の健康診断の実際：法的根拠 方法（講義）
2	児童生徒の健康診断の実際：方法及び技術的基準（講義）
3	児童生徒の健康診断の実際：方法及び技術的基準（演習）
4	児童生徒の健康診断の実際：総合評価・事後措置（GW）
5	就学時の健康診断：法的根拠 方法（講義）
6	就学時の健康診断：方法及び技術的基準（演習）
7	子どもの現代的な健康課題とその対応 不登校・保健室登校（講義、個人演習）
8	子どもの現代的な健康課題とその対応 不登校・保健室登校（グループ討議）
9	子どもの現代的な健康課題とその対応 不登校・保健室登校（発表、全体討議）
10	子どもの現代的な健康課題とその対応 いじめ（講義、グループ討議）
11	子どもの現代的な健康課題とその対応 いじめ（発表、全体討議）
12	子どもの現代的な健康課題とその対応 L G B T、外国籍の子ども等（講義、グループ討議）
13	子どもの現代的な健康課題とその対応 L G B T、外国籍の子ども等 発表、全体討議）
14	子どもの現代的な健康課題とその対応 こどもの貧困（講義、グループ討議）
15	子どもの現代的な健康課題とその対応 こどもの貧困（発表、全体討議）

#### 評価

適宜小テストを実施する。テストを7割、グループ討議、全体討議での参加状況、貢献度を3割とし60点以上を合格とする。テスト、レポートはコメントそ入れ授業内で返却し解説する。

#### 授業外学習

【事前予習・事後学修】



学校保健・養護概説の学修を前提として授業を進める。各自で学校保健，養護概説を復習したのちに授業に参加する必要がある。事前予習・事後学修ともに1時間程度の時間を要する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目「養護概説」における教科書を使用する。その他必要に応じて、授業時に指示する。

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「学校保健」「養護概説」「看護学（臨床実習及び救急処置を含む）」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指す。

#### 科目の概要

#### 学修目標

これまでに学んだ知識と技術を生かしながら、さまざまな状況において、養護教諭としての確かな判断と対応力を身に付ける。

#### 内容

1	子どもの健康課題に関すること（アレルギー疾患の現状と対応 講義）
2	子どもの健康課題に関すること（アレルギー事例を用いたGWと討議）
3	子どもの健康課題に関すること（児童虐待の現状と対応 講義）
4	子どもの健康課題に関すること（児童虐待事例を用いたGWと討議）
5	子どもの健康課題に関すること（医療的ケアの現状と対応）
6	子どもの健康課題に関すること（医療的ケアの事例を用いたGWと討議）
7	事例を用いた救急処置の演習 内科的な対応（GW・実技）
8	事例を用いた救急処置の演習 外科的な対応（GW・実技）
9	事例を用いた救急処置の演習 体育的行事（GW・実技）
10	事例を用いた救急処置の演習 感染症対策（GW・実技）
11	事例を用いた救急処置の演習 校外学習（GW・実技）
12	総合演習
13	総合演習
14	学校保健に関する最新統計 疾病関連（講義）
15	学校保健に関する最新統計 生徒指導関連（講義）

#### 評価

授業内で行う小テストを5割、レポート内容を5割とし、60点以上を合格とする。 テスト、レポートはコメントを入れて授業内で返却し解説する。

#### 授業外学習

【事前予習】【事後学修】 1 . 2 年 , 3 年前期の教職科目の学修を前提に授業を行う。各自で復習をして授業に臨む必要が

ある。事前予習・事後学修ともに1時間程度の時間を要する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- ・采女智津江他 「新養護概説」少年写真新聞社
- ・学校保健・安全実務研究会編著 「学校保健実務必携」 第一法規
- ・岡田加奈子他 養護教諭、看護師、保健師のための学校看護 東山書房
- ・その他必要に応じて授業時に指示する

科目名	臨床看護実習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：

教職課程科目として設定しており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。

科目の概要：

学内での講義・看護支援のロールプレイ・学外での臨床講義によって展開する。ここでは、看護の視点で子どもの健康保持のために養護教諭として適切な判断と対応ができるための基礎的能力を培う。

学修目標：

1. 感染管理に関して、学校現場にあてはめた場合、どのように取り扱うことがよいか考え、適切な対処や行動をとることができる。
2. 慢性疾患や障がいのある子ども達を地域の学校（特別支援学校を含む）で受け入れる際に、適切な援助が理解でき、対処・行動することができる。
3. 身体不調や異常を訴える子ども達に対して、症状を見極める能力を身に付け、適切な看護ケアが実施できる。
4. 命や性の教育について、考えることができる。

#### 内容

養護教諭免許取得を本気で目指している学生で、かつ、「看護学概論」「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」の単位を修得している学生を対象とする。

1	ヘルスアセスメントと救急処置のプロセス
2	外科系疾患の重症度の見極めと対応
3	内科系疾患の重症度の見極めと対応
4	スポーツ障害、整形外科疾患
5	性感染症、女性ホルモンの働きと月経の仕組み
6	身体不調や異常を訴える子どもへのフィジカルアセスメントと対応
7	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（発熱・頭痛・倦怠感）
8	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（腹痛・嘔気嘔吐・呼吸困難）
9	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（掻痒感・外傷・打撲）
10	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（意識障害・けいれん・不定愁訴）
11	臨床看護実習の授業の振り返りと整理まとめ
12	臨床講義（病院の機能と役割、他職種との連携と機能、病院における感染管理の実際）
13	臨床講義（小児救急看護の実際）
14	臨床講義（慢性疾患および障がいのある子どもへの看護、病院と学校との連携）
15	臨床講義（生命と性の教育）

#### 評価

筆記試験（35%）、演習の参加状況（30%）、臨床講義レポート（35%）により総合的に評価し、60点以上を合格

とする。但し、上記3つの視点でいずれかが60%に満たない場合は、単位は未認定となる。

【フィードバック】授業の初めに前回授業の質疑応答に返答し、学習理解が深められるようにする。

#### 授業外学習

【事前予習】これまでの授業の総括になるため、毎回指定する単元についてこれまで作成してきた学びノートおよび教科書を復習し、授業内での質問に答えられるように準備しておく（60分）。

【事後学修】講義については学びノートに加筆する。演習で体験した事例について、SOAP形式の記録を作成する。臨床講義で学習したことは、学校現場でどのように活かせるのか考察する（60分）。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」等で使用したテキストを準備しておくこと。他にも、授業の中で提示していく。

【推薦書】衛藤隆他編 『最新Q & A教師のための救急百科』 大修館書店

加藤英治 『症状で見る子どものプライマリ・ケア』 医学書院

大谷尚子他編著 『養護教諭のためのフィジカルアセスメント見て学ぶ応急処置の基礎基本』 日本

小児医事出版

【参考図書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

科目名	情報と職業		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

1. 情報化の進展が職業にどのような多様性をもたらしているかを理解する。
2. 職業人としての基本を修得すると共に、情報産業分野の特徴を理解する。
3. 特許・著作権等知的財産権の基本知識習得と情報化社会におけるその役割を理解する。

## 内容

以下の内容を中心にした講義と共に、ディスカッションを通じて自ら考える力を養成する。

講義の方法は白板、配布資料による講義とディスカッションである。

1. 情報とは何か/自律的取捨選択の重要性
2. 情報化を支える基盤技術/基礎知識
3. 情報化による労働環境の変遷
4. 組織の基本形態
5. 日本国憲法/教育基本法概要
6. 労働白書に見る働き方の現状
7. どのような社会人に成りたいか
8. 企業の求める人材とは
9. 特許法概要
10. 特許権紛争の事例研究
11. 著作権法概要
12. 著作権紛争の事例研究
13. 不正競争防止法概要/営業秘密
14. 企業のセキュリティー
15. 企業不祥事の原因分析

## 評価

ペーパーテスト/レポート ( 60点 )、授業に対する意欲・発言内容 ( 40点 ) 等を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

## 授業外学習

配布資料の復習と同時にインターネット検索による疑問点の解明等 自律的学習を行う事

## 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

白板・配布資料による授業であり、教科書は使用しない。

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

義務教育学校 ( 小学校・中学校 ) の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導並びに事後指導を行う科目です。集中講義で登録し、4月～5月にかけての時期に昼休みや5時限目などを活用して指導します。

### 科目の概要

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と「特別支援学校体験2日間」について、福祉の専門性や特別支援教育の専門性について各分野の先生方から話を聞いたり、先輩たちが経験した話を聞いたりし、介護等体験が実り多いものになるよう勉強します。

### 学修目標 ( = 到達目標 )

高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養います。また、特別支援学校での体験を通して、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、肢体不自由児、病弱児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深めます。

## 内容

以下の内容を学習します。

- 事前指導 : 社会福祉施設、及び特別支援学校についての学修
- 介護等体験 : 福祉施設5日間、特別支援学校2日間の、計7日間
- 事後指導 : 体験ノートの執筆・整理と提出

それぞれ、4月のガイダンスにおいて、講義日程、体験期間、体験場所等について説明します。

教職支援課 ( 教職課程センター ) の掲示等をよく見ておくようにしてください。

## 評価

事前事後指導における受講態度 ( 20% )、体験への参加 ( 30% )、事後報告書の内容 ( 50% ) を総合評価し、60点以上を合格とします。

## 授業外学習

- 【事前準備】 テキストを読み、概要を理解するとともに、疑問点を事前指導中に解決します。(授業ごとに60分)
- 【事後学修】 体験終了後に、振り返りのレポートを作成し、教職支援課に提出します ( 通算で180分 )。

## 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

次のテキストを使用します。各自購入し、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第4版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブックフィリア〔インクルーシブ教育システム版〕』ジヤース教育新社



科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	若葉 京良		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

義務教育学校(小学校・中学校)の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導並びに事後指導を行う科目です。集中講義で登録し、4月～5月にかけての時期に昼休みや5時限目などを活用して指導します。

#### 科目の概要

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と「特別支援学校体験2日間」について、福祉の専門性や特別支援教育の専門性について各分野の先生方から話を聞いたり、先輩たちが経験した話を聞いたりし、介護等体験が実り多いものになるよう勉強します。

#### 学修目標(=到達目標)

高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養います。また、特別支援学校での体験を通して、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、肢体不自由児、病弱児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深めます。

#### 内容

以下の内容を学習します。

- 事前指導 : 社会福祉施設、及び特別支援学校について
- 介護等体験 : 福祉施設5日間、特別支援学校2日間の、計7日間
- 事後指導 : 体験ノートの作成・整理と提出

それぞれ、4月のガイダンスにて、講義日程、体験期間、体験場所等について説明します。

教職支援課(教職課程センター)の掲示等をよく見ておくようにしてください。

#### 評価

事前事後指導における受講態度(20%)、体験への参加(30%)、事後報告書の内容(50%)を総合評価し、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前準備】 テキストを読み、社会福祉施設や介護等体験の概要についての理解を深め、疑問点があれば事前指導中に解決できるようにします。(授業ごと60分)

【事後学修】 介護等体験終了後に、振り返りレポートを作成し、教職支援課に提出します。(合計180分)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

以下のテキストを使用します。各自で購入した上で、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第4版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブックフィリア〔インクルーシブ教育システム版〕』ジヤース教育新社

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 教職課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

義務教育学校 ( 小学校・中学校 ) の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導並びに事後指導を行う科目である。集中講義で登録し、4月～5月にかけての時期に。昼休みや5時限目などを活用して指導する。

#### 科目の概要

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と「特別支援学校体験2日間」について、福祉の専門性や特別支援教育の専門性について各分野の教員から話を聞く。さらに、先輩たちが経験した話を聴き、介護等体験が実り多いものになるよう勉強する。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

1. 高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養う。
2. 特別支援学校での体験を通して、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、肢体不自由児、病弱児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深める。
3. 経験した内容を振り返り、知識や理解の定着に努める。

#### 内容

以下の内容を学習します。

- 事前指導 : 社会福祉施設、及び特別支援学校についての学修  
 介護等体験 : 福祉施設5日間、特別支援学校2日間の、計7日間  
 事後指導 : 体験ノートの執筆・整理と提出

それぞれ、4月のガイダンスにおいて、講義日程、体験期間、体験場所等について説明します。

教職支援課 ( 教職課程センター ) の掲示等をよく見ておくようにしてください。

#### 評価

事前事後指導における受講態度 ( 20% )、体験への参加 ( 30% )、事後報告書の内容 ( 50% ) を総合評価し、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

- 【事前準備】 テキストを読み、概要を理解するとともに、疑問点を事前指導中に解決します。(各授業に対して60分)  
 【事後学修】 体験終了後に、振り返りのレポートを作成し、教職支援課に提出します。(各授業に対して60分)

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

次のテキストを使用します。各自購入し、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第4版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブックフィリア〔インクルーシブ教育システム版〕』ジヤース教育新社